

SYLLABUS

2008

D. 電気電子工学科



京都大学工学部

D 電気電子工学科

電気電子工学科

60740 電気電子工学概論	D-1
60630 電気回路基礎論	D-2
60030 電気電子回路	D-3
230111 基礎情報処理演習	D-4
22017 基礎情報処理	D-5
60100 電子回路	D-6
60750 電気電子工学実験 A	D-7
60760 電気電子工学実験 B	D-8
60620 電気電子プログラミング及演習	D-9
60820 電気電子数学	D-10
60080 電磁気学 1	D-11
60230 電力回路	D-12
60280 電気機器 1	D-13
60120 論理回路	D-14
60160 計算機工学	D-15
60130 情報理論	D-16
60150 物性・デバイス基礎論	D-17
60401 半導体工学	D-18
60770 電気電子工学実習 A	D-19
60780 電気電子工学実習 B	D-20
60800 電気電子計算工学及演習	D-21
90302 グラフ理論	D-22
60220 電気回路	D-23
60090 電磁気学 2	D-24
60600 デジタル回路	D-25
60690 電気電子計測 1	D-26
60710 電気電子計測 2	D-27
60260 自動制御工学	D-28
60270 デジタル制御	D-29
60660 システム最適化	D-30
60670 知能型システム論	D-31
60290 電気機器 2	D-32
60720 パワーエレクトロニクス	D-33
60300 発電工学	D-34
60310 放電工学	D-35
60320 通信基礎論	D-36

60330 情報伝送工学	D-37
60340 通信ネットワーク	D-38
60350 電波工学 1	D-39
60360 マイクロ波工学	D-40
60370 計算機ソフトウェア	D-41
60380 計算機システム	D-42
60610 デジタル信号処理	D-43
60390 固体電子工学	D-44
60810 電気電子工学のための量子論	D-45
60410 プラズマ工学	D-46
60420 真空電子工学 1	D-47
60430 電気電子材料学	D-48
60440 光工学 1	D-49
62000 生体医療工学	D-50
60470 電波工学 2	D-51
60480 光通信工学	D-52
60500 電力系統工学	D-53
60510 絶縁設計工学	D-54
60730 マンマシンシステム工学	D-55
60530 電気応用工学	D-56
60540 音響工学	D-57
60550 真空電子工学 2	D-58
60560 光電子デバイス工学	D-59
60570 光工学 2	D-60
60790 電気伝導論	D-61
60580 電気法規	D-62
60590 電波法規	D-63
60910 電気電子英語	D-64
21054 工学倫理	D-65

電気電子工学概論

60740

Introduction to Electrical and Electronic Engineering

【配当学年】1年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】電気電子工学科兼担教官

【講義概要】電気電子工学科の研究室で行われている活動の内容を知ることを通して、電気電子工学とはどのような学問であるかについて学ぶ。講義形式ではなく、調査—報告の形式をとり、自らが主体的に調べ、その内容を他者に説明することを通して理解を深める。また研究室訪問や特別講義を通して、教官や先輩達（4年生・大学院生）との交流を深め、1・2年生で学ぶ基礎科目の重要性・意義などを理解する。なお、本講義は隔週で開講し、各開講日は2コマ連続の授業を行う。以下の説明の回数は、日数を表している。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
概説	2	電気電子工学科で習得する専門教育の概要について説明し、本講義の進め方について説明した後、班分けを行う。
研究室の取材	2	各班に分かれて、電気電子工学科関連の研究室を訪問し、その活動内容について調査する。
プレゼンテーションの準備	2	取材に基づき、研究室の活動内容を紹介するポスターを準備する。
発表会	1	各班ごとに準備したポスター発表を行う。それを通して、電気電子工学科関連の研究室について、その活動内容を学ぶ。

【教科書】配布する資料

【参考書】

【予備知識】

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

電気回路基礎論

60630

Fundamentals of Circuit Theory

【配当学年】1年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】久門 尚史

【講義概要】入門として抵抗回路の取り扱い方を説明したあと、回路素子について述べる。次にインダクタやキャパシタを含む回路を解析する際、必要となる線形微分方程式の解法について説明し、それを用いて正弦波交流回路と簡単な回路の過渡現象の解析法を講述する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
直流回路の計算法	3	回路解析の入門としての直流回路の解析法を説明する。すなわち、オームの法則、キルヒホフの法則、電圧源、電流源、回路素子などを説明する。
線形微分方程式の解法	5	インダクタ、キャパシタを含む回路の方程式を導く。そのあと、線形微分方程式の解き方を説明し、一般解、特殊解の意味を述べる。
交流回路の解析法	4	フェーザ表示を説明したあと、インピーダンス、アドミッタンスの概念を説明し、それを用いると交流回路の解析が直流回路の解析と同じように行えることを述べる。
二端子対回路網	2	電源と負荷との中間に位置する回路網という立場から二端子対回路網の初歩の行列論的な取り扱い方について説明する。

【教科書】奥村浩士：エース電気回路理論入門（朝倉書店）

【参考書】大野克郎：電気回路（I）（オーム社）、小沢孝夫：電気回路（I）（昭晃堂）

【予備知識】複素数、ガウス平面、2行2列の行列と行列式など高等学校の数学程度。

【授業URL】

【その他】

電気電子回路

60030

Electric and Electronic Circuits

【配当学年】1年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】和田修己

【講義概要】前半では、変成器を含む受動回路の解析法、回路方程式のたて方についてのべる。後半では、トランジスタなどの能動素子を含む回路を電気回路理論で解析する方法を説明したのち、回路の周波数特性の扱い方と、回路のスイッチング動作の基本について解説する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
受動回路の解析法	5	「電気回路基礎論」に引き続き、テブナン・ノートンの等価電源、相互インダクタンスと変成器を含む回路の取り扱い方について説明する。
回路の方程式	2	多くの素子を含む場合にも適用できる回路解析の方法として、閉路方程式と節点方程式の立て方について説明する。
能動素子の回路解析	3	電子管やトランジスタを動作させるための直流バイアスと、信号の増幅などを扱うための交流等価回路について説明し、制御電源の考え方と、電子回路を電気回路理論で解析する方法を説明する。
電子回路の周波数特性	2	電力や電圧・電流の比を表す際の dB(デシベル) 表示について説明し、簡単な増幅回路の周波数特性について解説する。
半導体の基礎と能動回路の2値動作	2	ダイオードやトランジスタを構成する半導体の p n 接合と、その基本的特性について解説し、トランジスタのスイッチングについて説明する。

【教科書】奥村: 電気回路理論入門(続編)(レイメイ社); 北野: 電子回路の基礎(培風館)

【参考書】

【予備知識】電気回路基礎論

【授業URL】

【その他】

基礎情報処理演習

230111

Exercises in Information Processing Basics

【配当学年】1年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】朝香卓也，石井信，水田忍

【講義概要】大学生活においてコンピュータを活用するためのリテラシ能力の育成を目的とする。具体的には，UNIX系OSの利用方法，LaTeXでの文書作成法の基礎に関する演習を行う。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
UNIXの概説	2	OSおよびUNIXの基礎概念の説明，および実習準備を行う。またXウィンドウの操作演習を行う。
UNIX操作基礎	1	ファイルシステム，コマンド・シェル等の操作演習を行う。
emacs系エディタ	1	emacs系エディタの基本操作習得および文字入力の演習を行う。
LaTeX	2	LaTeXを用いた文書作成法の基礎を習得する。
図・グラフ作成	2	gnuplot, tgif, xvを用いた，図・グラフ作成法と，それらのLaTeXにおける利用法を習得する。
ファイルフォーマットの変換	1	ファイルフォーマット変換法の基礎を習得する。
総合課題演習	4	

【教科書】基礎情報処理演習（生協にて販売）

【参考書】

【予備知識】

【授業URL】

【その他】演習の進行に伴ってほぼ毎回簡単な課題を与え，レポートを演習時間内に提出させる。成績は，これらレポートおよび出席点によりつけられる。なお，本演習は情報教育I群科目である。

基礎情報処理

22017

Information Processing Basics

【配当学年】1年

【開講期】前期

【曜時限】(記入してください)

【講義室】(記入してください)

【単位数】(記入してください)

【履修者制限】(記入してください)

【講義形態】(記入してください)

【担当教員】高橋 他

【講義概要】電気系の専門家として必要な計算機・情報処理技術を体系的に述べる。さらに、技術の変化が激しい、通信、LSI、メディア情報処理については、個々の専門家によるリレー講義により、基礎から最新の技術動向までをカバーする。

【評価方法】(記入してください)

【学習目標】(記入してください)

【授業計画】

項目	回数	内容説明
情報倫理、コンピュータの歴史と原理	2	情報セキュリティ、知的財産権、個人情報保護、コンピュータ技術の歴史、ストアードプログラムコンピュータの原理など
情報のデジタル表現と演算	2	文字・音声・映像のデジタル表現、情報圧縮、2進数演算、2の補数表示、エントロピーなど
コンピュータアーキテクチャ	2	記憶階層、バス、キャッシュ、割り込み、磁気/光ディスク、並列処理、OSの役割など
論理回路の基礎、プログラムと情報処理アルゴリズム	2	論理代数、論理回路、プログラム言語、方程式の解の求め方、ソートングアルゴリズム、ニューラルネットワークなど
コンピュータネットワーク	2	OSIプロトコル、回線交換とパケット交換、TCP/IP、アドレス構造、DNS、LANなど
最新の技術動向	3	通信・デジタル信号処理技術、LSI技術、メディア処理技術の動向など

【教科書】プリントを配布する。

【参考書】稲垣耕作著「理工系のコンピュータ基礎学」コロナ社

【予備知識】

【授業URL】

【その他】情報処理の基礎的な知識の修得度合いを、定期テストに加えて演習レポートを課し、総合的に成績を評価する。本講義で予定している情報倫理の講義に関連して、下記の情報セキュリティに関する e-learning 講義を、本講義の受講期間中に受講すること。なお、この e-learning の受講は、本科目の成績には関係はありませんが、京都大学の全構成員に対して受講が求められているものです。 <https://el.iimc.kyoto-u.ac.jp/inavi/service>

電子回路

60100

Electronic Circuits

【配当学年】2年

【開講期】前期

【曜時限】(記入してください)

【講義室】(記入してください)

【単位数】(記入してください)

【履修者制限】(記入してください)

【講義形態】(記入してください)

【担当教員】杉山和彦, 北野正雄

【講義概要】「電気電子回路」における能動素子回路の基礎をふまえて、能動素子のモデル化、トランジスタ回路の基礎、各種増幅回路、負帰還、演算増幅回路、および発振回路について述べる。時間が許せば、非線形回路、電源回路、および雑音についても解説する。

【評価方法】(記入してください)

【学習目標】(記入してください)

【授業計画】

項目	回数	内容説明
能動素子のモデル化	3	能動素子を電気回路として扱うために必要な、制御電源、および線形化という電子回路で重要な概念について述べる。続いてバイアスと信号の切り分けについて述べる。
トランジスタ回路の基礎	3	トランジスタの動作原理に基づいた考え方で、各種接地方式の特徴を述べる。具体的なバイアス回路について説明する。
各種増幅回路	3	効率に注目しながら、各種電力増幅回路について説明する。演算増幅回路などの集積回路で用いられる回路を意識しつつ、直流増幅回路について説明する。
演算増幅回路	2	増幅器の負帰還とその役割について述べるとともに、演算増幅器の基本である仮想短絡という概念を説明する。続いて積分、微分などの線形演算回路や、対数、指数などの非線形演算回路について述べる。
発振回路	2	正帰還を利用した発振回路の原理について述べ、発振回路の各種方式とその特徴を示す。
その他	1	時間が許せば、非線形回路として、乗算器、変調回路、および復調回路について述べ、続いて電子回路のエネルギー供給源としての電源回路、および電子回路における雑音の取り扱いについて説明する。

【教科書】北野: 電子回路の基礎 (培風館)

【参考書】石橋: アナログ電子回路 / アナログ電子回路演習 (培風館); 霜田, 桜井: エレクトロニクスの基礎 (新版) (裳華房); 中島: 基礎電子回路 (電気学会)

【予備知識】電気電子回路, 電気回路基礎論。(電子回路の習得には、電気回路の基礎をある程度は理解している必要があると思います。)

【授業URL】講義のホームページへのリンクはこちら。

【その他】時間の制約から、内容は適宜取捨選択される。レポートでBarCoverを利用するので、各自準備すること。講義のホームページは「工学部・工学研究科講義資料のページ」<https://www.kogaku.kyoto-u.ac.jp/lecturenotes>にある。

電気電子工学実験A

60750

Electrical and Electronic Engineering Practice A

【配当学年】2年

【開講期】前期

【曜時限】(記入してください)

【講義室】(記入してください)

【単位数】(記入してください)

【履修者制限】(記入してください)

【講義形態】(記入してください)

【担当教員】全員

【講義概要】電気電子工学分野における初歩的な実験技術の習得と電気電子回路の理解を目的とし、ラジオの仕組みを中心に基本的な電気電子回路・素子の働きを調べる実験を行う。

【評価方法】(記入してください)

【学習目標】(記入してください)

【授業計画】

項目	回数	内容説明
電気電子工学実験の基礎 (講義・実習)	1	電気電子工学実験における実験の進め方, 実験ノートの取り方, グラフの描き方, レポートの書き方について講義する. また, 個々に作成したレポートを互いに添削しあい, よりよいレポートの書き方について考える.
電気電子工学計測の基礎 (実験)	3	市販のアナログテスターキットを製作し, テスター内部の機構や働きについて学習する. 電気電子工学の計測技術の基礎として, アナログテスターとデジタルマルチメータ, オシロスコープの使用法を学ぶ.
受動素子と同調回路 (実験)	3	コイル, コンデンサ, 抵抗など受動素子からなる回路の振幅や位相の周波数特性測定を行う. また周波数変調信号を周波数弁別回路を通して振幅変調信号へと変換できることを学ぶ. これらの実験を通してラジオにおける共振回路(同調回路)や周波数弁別回路などの動作を理解する.
能動素子回路と検波・低周波増幅・加算回路 (実験)	6	ダイオードとそれを用いた回路の特性測定, バイポーラトランジスタとそれを用いた回路の特性測定などを行う. これらの実験を通してラジオにおける検波回路や低周波増幅回路などの動作を理解する. またオペアンプ回路の基礎特性を測定し, 加算器についても理解する. 全体のまとめとして, 振幅変調波の復調の実験を行う.

【教科書】京都大学工学部電気系教室編：電気電子工学実験A 2007年度版

【参考書】奥村浩士: 電気回路理論入門(朝倉書店), 電気回路理論入門(続編)(レイメイ社),
北野正雄: 電子回路の基礎(培風館)

【予備知識】電気回路基礎論および電気電子回路の履修を前提とする。

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略, 変更, 追加がありうる. 実験に際しては, 筆記具, A4のレポート用紙・方眼紙・片対数グラフ用紙, 関数電卓, 直定規(30cm)と製図用テンプレートを持参のこと. 実験開始前に開催されるガイダンスに必ず出席し, 全体の説明や安全教育などを受けること.

電気電子工学実験 B

60760

Electrical and Electronic Engineering Practice B

【配当学年】2年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】全員

【講義概要】基本的な電気測定，各種電気材料の物性測定，基本デバイスの特性測定，各種電子回路に関する実験を通じて，電気電子工学分野における基礎的知識を修得する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
電気測定	2	電位差計，ブリッジを用いた抵抗，コンデンサ，コイルの測定を通じて基本的な電気測定法を理解する。
電気機器	2	変圧器，小信号トランスといった基本的な電気機器の試験および特性の測定を行う。
電子材料の特性測定	4	半導体，強誘電体，強磁性体，圧電材料の特性測定の実験を通じて，各種電気材料の基本的な物性を理解する。
電子回路の測定	4	オペアンプによる帰還回路，増幅・発振回路，論理回路，順序回路など各種電子回路について，設計・製作および特性測定を行い，動作原理を理解する。

【教科書】京都大学工学部電気系教室編：電気電子工学実験 B

【参考書】

【予備知識】電気電子工学実験 A を前提としている。

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。各実験の前に必ず教科書を読んで予習すること。実験に際しては，テスター，筆記具，A4のレポート用紙・グラフ用紙，関数電卓，定規などを持参のこと。

電気電子プログラミング及演習

60620

Exercise of Computer Programming in Electrical and Electronic Engineering

【配当学年】2年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】松山・黒橋・川嶋・山本(高)

【講義概要】実用的な手続き型プログラミング言語として一般的に用いられている，C言語によるプログラム作成を通じて，プログラミングの基本的概念，データ型と制御構造に関する種々の技法，コンパイラ，デバッガ等の開発環境の利用法を習得する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
概説	1	計算機プログラミングの必要性と意義等について概説した後，実習準備を行なう。
プログラミングの基礎	2	UNIX ワークステーションにおける，C言語コンパイラ，デバッガの利用法，C言語における基本演算，整数，実数等のデータ型の計算機内部での表現，条件分岐（if文），繰り返し（while文，for文）などの制御構造について学び，その演習を行う。
基本プログラミング技法	3	C言語における配列，多次元配列，手続きの単位としての関数，変数の有効範囲，ビット演算，関数の再帰呼出しなどについて学び，その演習を行う。
応用プログラミング技法	3	C言語における文字列の計算機内部での表現，文字列の操作方法，ポインタ型，構造体，ファイル入出力などについて学び，その演習を行う。
最終課題	4	演習内容に沿った最終課題を提示し，その演習を行う。

【教科書】柴田望洋：新版 明解C言語 入門編（ソフトバンククリエイティブ）

【参考書】

【予備知識】基礎情報処理，および基礎情報処理演習の履修を前提としている。（UNIXワークステーションの基礎的な利用法について習得していること。）

【授業URL】

【その他】演習課題のレポート提出と，最終課題に関する口頭試問を課す。

【配当学年】2年 【開講期】後期 【曜時限】（記入してください） 【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】大村善治

【講義概要】電気電子工学の基礎となる電磁気学をはじめ電波工学・プラズマ物理学・量子力学等において頻出する微分方程式の解として現れる三角関数、ベッセル関数、ルジャンドル関数等の固有関数、その応用としてフーリエ級数、フーリエ変換・ラプラス変換について解説する。

授業計画

- (1) 偏微分方程式の分類
変数分離による常微分方程式の導出
- (2) フロベニウスの方法による常微分方程式の級数解
振動方程式、ベッセル方程式、ルジャンドル方程式
- (3) 常微分方程式の解の特異点
ロンスキアン、解の独立性、第二の解
- (4) スツルム・リュービル理論
エルミート微分演算子、固有関数の直交性・完全系、グリーン関数の方法
- (5) 三角関数・フーリエ級数
周期関数・不連続関数の展開
- (6) ベッセル関数
ガンマ関数によるベッセル関数の級数表現、MATLAB 演習
- (7) ベッセル関数の応用
母関数、漸化式、ベッセル関数の積分表示とその応用
- (8) 球ベッセル関数
3次元ヘルムホルツ方程式の解、ハンケル関数
- (9) ルジャンドル関数
母関数、ポテンシャル境界値問題、ルジャンドル陪関数
- (10) フーリエ変換
離散的フーリエ変換、フーリエ積分、デルタ関数
- (11) フーリエ積分、デルタ関数
- (12) フーリエ変換による微分方程式の解法、たたみ込み積分
- (13) ラプラス変換
プロムウィッチ積分、微分方程式の初期値問題の解法

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容	説明
----	----	----	----

【教科書】Mathematical Methods for Physicists, Sixth Edition, G. B. Arfken and H. J. Weber, Harcourt/Academic Press

【参考書】

【予備知識】微分積分学, ベクトル解析, 複素関数論

【授業URL】

【その他】講義は原則として英語で行う。レポート課題を課し、試験をする。

電磁気学 1

60080

Electromagnetic Theory 1

【配当学年】2年

【開講期】後期

【曜時限】(記入してください)

【講義室】(記入してください)

【単位数】(記入してください)

【履修者制限】(記入してください)

【講義形態】(記入してください)

【担当教員】松尾

【講義概要】静電界，静電界におけるエネルギーと力の問題，鏡像法など静電界の境界値問題の解法，定常電流界，電流磁界などについて講述する。

【評価方法】(記入してください)

【学習目標】(記入してください)

【授業計画】

項目	回数	内容説明
真空中の静電界	2~3	クーロンの法則，ガウスの定理とその応用，電位，電界，電気力線，ラプラスの方程式とポアソンの方程式，真空中の導体系などについて説明する。
誘電体中の静電界	2~3	誘電体中の静電界，誘電体の分極，電束密度とガウスの法則，誘電体境界面での境界条件，コンデンサの容量などについて説明する。
静電エネルギーと力および静電界の境界値問題の解法	4~5	静電エネルギーと力について説明し，鏡像法など静電界の境界値問題の解法について講述する。
定常電流界、電流磁界	3~4	電流の連続式，定常電流と静電界との対応などについて説明する。電流磁界については，アンペアの法則，電流磁界，ビオ・サバールの法則，ベクトルポテンシャルなどについて説明する。

【教科書】配布プリント

【参考書】

【予備知識】微分積分学続論 A (ベクトル解析)

【授業URL】

【その他】

電力回路

60230

Analysis of Electric Power Circuit

【配当学年】2年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】引原

【講義概要】電気回路に引き続き、多相回路、電力回路の基礎について述べる。特に電気エネルギー・パワーの利用の観点から、基本となる回路構成、解析法について講述する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
電力回路の概要	1	日常生活における電気エネルギーの重要性について説明し、発電／送電の歴史と電力回路の構成について説明する。
三相平衡回路解析	3	電力回路の基礎となる平衡三相回路を対象として、電圧・電流・電力、等価回路について説明する。
電力回路の単位化	3	電力回路をその定格により単位化し、無次元量を用いた回路解析の重要性を説明する。様々な回路の解析を通じてその有効性を示す。
電力システム解析	2	簡単な電気エネルギーシステムの静的、動的特性について述べ、安定性に関する概念を説明する。
不平衡回路解析と座標変換法	3	交流電圧・電流のベクトル表現について述べ、三相回路に対する対称座標変換変換について説明する。また、三相回路における平衡・不平衡に関する概念について説明する。
総論	1	まとめと課題について説明する。

【教科書】ノート講義（ウェブページ、プリント併用）

【参考書】なし

【予備知識】線形代数、電気回路の知識が不可欠である。

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数に応じて適宜演習を行う。演習(5%)、レポート提出(15%)、定期試験(80%)を基本に成績をつける。年度ごとの難易度を考慮して調整する。

電気機器 1

60280

Electric Machines 1

【配当学年】2年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】白井

【講義概要】電気機器には多種多様なものがあり、人類が電気エネルギーを使用するようになって以来、電力の発生・送配・利用の主に3分野で効果的な機器が発達してきた。電気機器の分野には、電気エネルギーを作り出す各種の発電機と、産業・運輸交通・家電・情報機器等において電気エネルギーを利用する電動機等がある。我々が使用する電気エネルギーは全消費エネルギーの40%程度であり、電気機器の役割は極めて大きい。この講義の第一段階として、まず電気機器開発の歴史、種類および電気機器に共通した電磁気学や電気・磁気回路理論などを概説し、つづいて変圧器および誘導機について学ぶ。講義は、これらの機器のハードウェアについても述べるが、機器の原理・特性理解に重点をおいた内容とする。また、適宜それらの技術の現状を紹介し、魅力あるものとする。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
電気機器を学ぶにあたって	2~3	電気機器開発の歴史・分類などについて概説し、電気機器を学ぶに当たっての入門的な諸事項や電気工学における電気機器を学ぶ目的・意義について述べる。
変圧器	5~6	電気機器のなかで比較的理解し易い変圧器の説明から始める。まず、変圧器の原理・構造・結線法を述べ、ついで特性把握のための等価回路、ベクトル図、損失、効率などの基本概念を述べる。特殊変圧器も加える。
誘導機	5~6	まず電動機の原理・構造並びに変圧器との類似性を述べ、ついで等価回路・ベクトル図などの誘導法とその解釈法を述べる。さらに誘導機の特性、速度制御について述べる。

【教科書】プリントを配布する。

【参考書】大学課程 電気機器（1）（仁田工吉他著）（2）（岡田隆夫他著：オーム社）、電気機器 (I)(II)（野中作太郎著、森北出版株式会社）

【予備知識】電気回路基礎論，電力回路，電磁気学 1

【授業URL】

【その他】

論理回路

60120

Logic Circuits

【配当学年】2年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】小野寺

【講義概要】 計算機で代表されるデジタル処理装置の基本となる論理回路について述べる。まず論理代数と論理関数ならびに論理関数の簡単化について述べ、つぎに組合せ論理回路と順序論理回路の動作と合成法について述べる。さらに2進数の演算回路について説明する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
論理関数の基礎	3	数の体系, 基本論理, 公理と定理, 論理関数の表現法、論理関数の簡単化について述べる。
組合せ論理回路	3	論理ゲート, 組合せ論理回路の解析法, 組合せ論理回路の設計法, 代表的な組合せ論理回路について述べる。
順序論理回路	4	順序論理回路の動作と表現法、フリップフロップの構成と動作、順序論理回路の設計法, 状態数の最小化、順序論理回路の一例として同期式カウンタの設計法について述べる。
演算回路	2	2進数の加減算の方法, 2進加算回路の構成と動作について述べる。論理回路における遅延の影響やハザードについて説明する。

【教科書】高木: 論理回路 (昭晃堂)

【参考書】田丸: 論理回路の基礎 (工学図書)

【予備知識】

【授業URL】

【その他】

計算機工学

60160

Computer Architecture Basics

【配当学年】2年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】小林(和)

【講義概要】 計算機の基本構造を把握し、計算機ハードウェアの動作が理解出来る基礎力を養成する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
計算機の原理	2	計算機の概要と歴史、計算機の基本的構造、データの表現と演算法、計算機の命令等について説明する。
基本アーキテクチャ	2	計算機（プロセッサ）の基本的な構造について説明する。
数表現	2	計算機内部での、整数や小数の表現方法について学ぶ。
制御アーキテクチャ	3	計算機内部で命令を実行するさいの、制御手法について説明する。
演算アーキテクチャ	3	各種の加減算、乗除算を実現するアーキテクチャについて説明する。

【教科書】未定

【参考書】”コンピュータの構成と設計(第3版)”,Patterson, Hennessy 著, ”コンピュータアーキテクチャの基礎”, 柴山潔著

【予備知識】論理回路を修得しておくこと。

【授業URL】

【その他】

情報理論

60130

Information Theory

【配当学年】2年

【開講期】後期

【曜 時 限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単 位 数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】吉田 進, 村田英一

【講義概要】情報の蓄積（圧縮）、伝達に関わる基本的な問題、特に情報源符号化と通信路符号化を中心に講述し、巡回符号などの具体的な誤り検出符号ならびに誤り訂正符号についても述べる。また情報セキュリティの初歩についても触れる。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項 目	回 数	内 容 説 明
情報理論とは	1	情報理論の歴史、目的、応用の現状などについて紹介する。
情報源符号化	3~4	無記憶情報源やマルコフ情報源、各種通信路モデルについて説明したあと、情報源符号化定理について講述するとともに、ハフマン符号や Lempel-Ziv 符号など具体的な情報源符号化法について述べる。
通信路符号化定理	2	相互情報量や通信路容量について述べるとともに、シャノンの通信路符号化定理について述べる。
誤り検出符号と誤り訂正符号	5~6	パリティ検査符号、ハミング符号、更には巡回符号の原理について詳しく述べる。また、有限体（ガロア体）の知識に基づく多重誤り訂正符号として、BCH符号などについて紹介する。
情報セキュリティ	1~2	重要な情報がネットワークを介して電子的に伝送される機会が増えるにつれ、その安全性が重視されるようになってきた。具体的には暗号化、特に公開鍵暗号系やデジタル署名、認証などに関する基礎事項を説明する。

【教科書】今井秀樹：情報理論 (昭晃堂)(予定)

【参考書】

【予備知識】確率統計や代数学の基礎知識が望ましい。

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

物性・デバイス基礎論

60150

Fundamentals of Electron Physics and Devices

【配当学年】2年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】木本・須田

【講義概要】電子が関与する電気現象の基礎を学習する。電子のエネルギー状態を量子力学的観点から理解し、粒子の平衡状態におけるエネルギー分布を熱力学や量子統計力学の観点から理解する。さらに、固体を構成する化学結合や結晶構造を学んだ後、電子の輸送現象や電子放出を理解することを目指す。固体内や真空中における電子の挙動を概述する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
量子力学の基礎	4	電子が波動性を持ち、その挙動がシュレディンガー方程式で記述されることを述べ、各種のポテンシャルに対する解を求めて、量子力学の基礎を紹介する。原子内電子のエネルギーが離散的値をとることを論じ、化学結合についても触れる。
統計力学の基礎	3	統計力学の基礎となる分布関数について説明した後、ボルツマン統計、ボーズ・アインシュタイン統計、フェルミ・ディラック統計を紹介する。各統計に従う粒子の特徴と分布関数の形を論じる。統計力学を現実の物理現象の解釈に適用した例についても述べる。
固体物理の基礎	2	原子結合や結晶構造について説明し、結晶における面や方位の定義を紹介する。結晶における格子振動を論じ、格子振動が固体物性に与える影響を説明する。固体結晶の簡単な評価方法についても紹介する。
固体内電子の挙動	3	固体内における電子の挙動を、電界の影響を含めて論じる。固体表面からの各種の電子放出機構を述べ、電子の数や速度分布が電流にどのように影響するかを述べる。次に、シュレディンガー方程式に周期的なポテンシャルを与えると、固体内電子のエネルギー状態がバンド構造となることを説明する。これを基に、固体内電子の有効質量の概念を紹介し、電気伝導現象が導電性、絶縁性に区別できることを論じる。

【教科書】田中哲郎: 物性工学の基礎 (朝倉書店)

【参考書】

【予備知識】物理, 化学の基礎知識があればよい。

【授業URL】

【その他】

【配当学年】2年

【開講期】後期

【曜時限】(記入してください)

【講義室】(記入してください)

【単位数】(記入してください)

【履修者制限】(記入してください)

【講義形態】(記入してください)

【担当教員】木本・須田

【講義概要】主要な半導体材料と応用分野を紹介した後、半導体の基礎的な物性とpn接合の理論を詳述する。次に、ダイオードとトランジスタの基本構造、動作機構、性能向上の工夫を解説する。最後に半導体の磁電的、光電的諸現象を概述し、各種半導体素子の構造、特性ならびに応用について述べる。

【評価方法】(記入してください)

【学習目標】(記入してください)

【授業計画】

項目	回数	内容説明
半導体工学の概要	1	電気電子工学において半導体がどのように使用されているかを述べ、それらが、半導体材料の持つ特性を活用したものであることを概述したのち、講義全体のスコープを紹介する。
半導体物性の基礎	3~4	半導体の基礎物性を左右するバンド構造を概述したのち、p型、n型の区別を論じ、電荷輸送粒子(キャリア)の種類、密度、移動度が導電性を決定することを述べる。多数キャリア、少数キャリアの挙動を詳述する。半導体の磁電的性質や高電界効果についても触れる。
pn接合の理論	3~4	金属と半導体の接触の電気的特性およびpn接合の基礎理論を、空間電荷層、中性領域に分けて論じる。電位分布、電流-電圧特性、容量-電圧特性を求めて静的な特性を述べる。空間電荷層におけるキャリアの生成・再結合の影響について説明した後、pn接合の交流特性、スイッチング特性など動的な特性についても論じる。
トランジスタの特性	3~4	バイポーラトランジスタおよび電界効果トランジスタの構造、動作原理と特性を論じる。トランジスタの構造や材料物性が特性に及ぼす影響を論じ、性能向上の方策について説明する。
光電効果素子	1	半導体内での光→電気、電気→光の信号やエネルギーの変換機構を概述し、これを活用する半導体素子についてその特性を述べる。

【教科書】松波弘之: 半導体工学 (昭晃堂)

【参考書】

【予備知識】物理、化学の基礎が必要である。物性・デバイス基礎論を受講しておくことが望ましい

【授業URL】

【その他】

電気電子工学実習 A

60770

Electrical and Electronic Engineering Advanced Practice A

【配当学年】3年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】全員

【講義概要】各種電気機器の試験および特性の測定を行い、発電機および電動機の運転に習熟する。また、マイクロコンピュータ、波、電子材料・プラズマ・デバイス等の特性測定、物性に関する実験を行い、電気電子工学分野における知識および測定技術を習得する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
半導体物性とデバイスの特性評価	2	半導体等の電子材料と電界効果トランジスタ (FET) の特性測定の実験を通じて、電子材料の基本的な物性および基本デバイスの動作原理を理解する。
計算機	2	順序回路の設計・製作や、マイクロコンピュータの内部動作の観測などを行い、計算機の基本動作を理解する。
電気機器	4	直流機、同期機、誘導機など各種電気機器の試験および特性の測定を行い、発電機および電動機の運転に習熟する。
波の干渉	2	自由空間および導波管中でのマイクロ波の伝搬についての実験を行うと同時に、アンテナの特性についての実験を行い、波の性質、測定法およびアンテナに関する知識を修得する。
真空プロセスとその応用	4	真空装置を用いたプラズマ生成と物性測定の実験、または真空蒸着によるショットキー接合の形成と特性測定の実験を通じて、プラズマの基本的な物性およびショットキーデバイスの動作原理を理解する。

【教科書】京都大学工学部電気系教室編: 電気電子工学実習 A

【参考書】

【予備知識】電気回路、電子回路、電磁気学の基礎的事項。「電気電子工学実験 B」

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。各実験の前に必ず教科書を読んで予習すること。実験に際しては、筆記具、A4のレポート用紙、グラフ用紙、関数電卓、定規などを持参のこと。

電気電子工学実習 B

60780

Electrical and Electronic Engineering Advanced Practice B

【配当学年】3年 【開講期】後期 【曜時限】（記入してください） 【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】全員

【講義概要】実験部分として、(1) パワーエレクトロニクス・電源回路、(2) 発光・受光素子、(3) デジタル光通信基礎、設計演習として、(4) 通信システム設計演習、(5) 分散型電源のシステム設計、(6) DC サーボモータと制御系、(7) 論理回路設計演習、(8) 材料物性から選択・履修し、電気電子工学分野における知識および測定・設計技術を習得する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
パワーエレクトロニクス・電源回路	3	半導体スイッチを用いた電力の変換や制御に関する基礎的な実験を行う。さらに、直流の定電圧および定電流安定化電源を作成し、その動作特性を評価することにより、直流電源回路の動作原理について理解を深める。
発光・受光素子	3	発光素子（発光ダイオード、レーザダイオード、各種ディスプレイ・照明機器など）、受光素子（フォトダイオード、太陽電池、光導電性セルなど）の特性評価を行い、その動作原理を理解する。測定に使用する光学機器の原理や取り扱いについても合わせて習得する。
デジタル光通信基礎	3	デジタル光通信に関する基礎的な実験を行い、アナログ/デジタル変換、パラレル/シリアル変換、光変復調などの動作原理を理解する。
通信システム設計演習	3	ソフトウェア上で通信システムの各部を設計することにより、通信システム全体の動作の理解を深める。
分散型電源のシステム設計	6	分散型電源システムの設計・製作・実験を通して、太陽光・風力等の自然エネルギーの電源・電力変換器・負荷を含めたシステムを理解する。
DC サーボモータと制御系	6	周波数応答を測定することにより DC サーボモータを同定し、フィードバックによる位置、速度制御等の実験を行う。さらに、同定モデルとシミュレーションに基づく実験結果の検証やフィードバック補償器の設計演習などを行う。これにより、システムの持つ動特性やフィードバック制御の基礎的な事柄についての理解を深める。
論理回路設計演習	6	ハードウェア記述言語 (HDL) を用いて、大規模集積回路 (LSI) の設計を行う。その場で回路変更可能な FPGA にダウンロードして設計した回路の動作検証を行う。
材料物性	6	半導体デバイスの基礎となる、薄膜形成、パタン転写などの要素技術、およびこれらを用いたデバイス作製とその特性測定を実習することにより、半導体プロセス、材料物性、デバイス動作についての理解を深める。

【教科書】京都大学工学部電気系教室編：電気電子工学実習 B

【参考書】

【予備知識】電気回路、電子回路、電磁気学、制御工学、半導体工学、通信工学の基礎的事項、「電気電子工学実習 A」

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数と各テーマの開講数およびテーマ間のバランスに応じて組分けを行う。各実験の前に必ず教科書を読んで予習すること。実験に際しては、筆記具、A4 のレポート用紙、グラフ用紙、関数電卓、定規などを持参のこと。

電気電子計算工学及演習

60800

Computational Methods and Exercise in Electrical and Electronic Engineering

【配当学年】3

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】白井康之・青木学聡・堀之内武

【講義概要】電子計算機における数値表現と誤差，線形方程式，非線形方程式，固有値等の解法，関数近似及び数値積分法，常微分及び偏微分方程式の解法など，電気電子工学における数値解析の基本的な考え方，理論的背景について解説すると共に，併せて計算機を使用した演習を行い理解を深め，計算機を用いた問題解決能力を身に付ける。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
計算機における数値表現と誤差	1~2	計算機における数値の表現・演算について解説し，誤差の解析・評価について述べる。
線形方程式の解法	2~3	連立一次方程式の消去法及び反復法を用いる解法について説明すると共に，計算機による演習を行う。
非線形方程式の解法	2~3	縮小写像の原理，ニュートン法などを説明すると共に，計算機による演習を行う。固有値問題の解法（1~2回）固有値問題の解法に関して，その基本的な考え方を解説すると共に，計算機による演習を行う。
関数近似及び数値積分法	2~3	連続関数を有限回の四則演算の操作で近似する問題及び数値積分法の原理・計算法・誤差について解説し，計算機による演習を行う。
常微分方程式の解法	2~3	各種の常微分方程式の解法について説明すると共に，計算機による演習を行う。
偏微分方程式の解法	2~3	偏微分方程式の解法に関して，差分法の初歩を説明する。

【教科書】配布プリント

【参考書】森 正武著：数値解析（共立出版），Numerical Recipes in C（技術評論社）

【予備知識】線形代数及び微積分学の基礎，「電気電子プログラミング演習」を履修していることが望ましい。

【授業URL】

【その他】数回の演習課題を課す。この科目は情報教育 III 群の科目である。

グラフ理論

90302

Graph Theory

【配当学年】2年

【開講期】後期

【曜時限】(記入してください)

【講義室】(記入してください)

【単位数】(記入してください)

【履修者制限】(記入してください)

【講義形態】(記入してください)

【担当教員】伊藤

【講義概要】グラフ・ネットワーク理論の基礎とそれに関する基礎的アルゴリズムについて学ぶ。その歴史から応用まで一通りの知識を得ると共に、理論的な基盤を確立することを重視する。

【評価方法】(記入してください)

【学習目標】(記入してください)

【授業計画】

項目	回数	内容説明
グラフとは何か	2	基本概念, オイラーの一筆書き定理、グラフの応用色々、ハミルトンの世界周遊パズル、計算機によるグラフの表現法、グラフの探索、全域木、平面グラフ
最短路問題	2~3	最短路の存在条件、最短路木、ダイクストラ法、ワーシャルフロイド法
最大流問題	2	フォード-ファルカーソンの増大路法、最大流=最小カットの定理、ディニッツの算法
NP 完全問題	2~3	クラス NP、多項式帰着性、NP 困難と NP 完全、代表的な NP 完全問題
連結度	1~2	枝連結度と点連結度、メンガーの定理、計算法
彩色問題	1~2	2 彩色問題、3 彩色問題、4 色定理とその 100 年の歴史-オイラーの公式、ケンペの「証明」とヒーウッドの反例、アッペルとハーケンによる解決-、5 色定理
最大マッチング問題	1	最大マッチング問題の基本性質、二部グラフ上での効率的なアルゴリズム、最小節点カバーとの双対性

【教科書】滝根哲哉, 伊藤大雄, 西尾章治郎 著: ネットワーク設計理論, 岩波書店 (2001).

【参考書】

【予備知識】特になし

【授業URL】

【その他】

電気回路

60220

Electric Circuits

【配当学年】3年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】久門 尚史

【講義概要】分布定数線路の基礎理論と集中定数回路の過渡現象ならびに回路網の合成法について講述する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
分布定数回路と集中定数回路	1	一本の往復線路は分布定数回路として取り扱うこともできるし、集中定数回路と見なすこともできる。それは何に帰因するのかを説明する。
分布定数線路の正弦波定常現象の解析	4	分布定数線路の方程式を Faraday の法則と Ampere の周回積分の法則から導いた後、正弦波励振に対する取り扱い、種々の終端条件の下での解析法について説明する。
分布定数線路の過渡現象の解析	3	無損失線路の分布定数線路にステップ状の電源電圧／電流が印加された場合の取り扱い方を定量的に述べる。
集中定数回路の過渡現象の解析	3	ラプラス変換による回路網の過渡現象の解析法を説明する。
回路網の合成法	2	回路網関数を定義し、それに対する回路の合成法を説明する。

【教科書】プリント使用

【参考書】小沢孝夫: 電気回路 II (昭晃堂), 電気学会編: 電気回路理論

【予備知識】「電気回路基礎論」または「電気回路と微分方程式」および「電気電子回路」の講義内容

【授業URL】

【その他】

電磁気学 2

60090

Electromagnetic Theory 2

【配当学年】3年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】松尾, 白井

【講義概要】磁性体, 電磁力, 電磁誘導, インダクタンスの計算法, マクスウェル方程式と電磁波, 電磁界の計算機解析などについて講述する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
磁性体	3	磁化, 磁界, 磁性体中のアンペアの法則, 磁界に関する境界条件, 磁界のエネルギー, 強磁性体, 磁気回路について説明する。
電磁力	2	電磁力に関する諸法則, 電磁界における荷電粒子の運動などについて説明する。
電磁誘導	3	ファラデーの電磁誘導法則, 運動電磁誘導法則, 自己及び相互誘導とインダクタンスの計算方法, 電流回路の磁気エネルギーと電磁力などについて説明する。
電磁界	3	マクスウェル方程式の導出, ポインティングの定理, 電磁波に関する境界条件, 表皮効果などについて説明する。
電磁界計算機解析	2	計算機を用いた電磁界解析について説明する。

【教科書】配布プリント

【参考書】

【予備知識】電磁気学 1

【授業URL】

【その他】

デジタル回路

60600

Digital Circuits

【配当学年】3年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】小野寺秀俊

【講義概要】デジタル回路技術の基礎ならびに応用について述べる。まず、デジタル信号の周波数特性などの基本的性質、デジタル信号の伝や波形操作について述べる。つぎにダイオード、バイポーラトランジスタ、MOSトランジスタのスイッチング動作を説明し、デジタル集積回路に用いる論理ゲートやメモリーについて述べる。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
デジタル信号の基本的特性	2	デジタル信号の周波数特性、線形回路のパルス応答について述べる。
デジタル信号の伝送	2	分布定数線路の伝送特性、伝送波形、波形の乱れについて述べる。集積回路内の信号伝送について説明する。
半導体素子のスイッチング特性	3	pn接合ダイオード、バイポーラトランジスタ、MOSトランジスタの直流特性ならびにスイッチング特性について述べる。
デジタル波形の操作	1	クリッパ、リミッタ、シミュットトリガ回路などの波形操作回路について述べる。
バイポーラデジタル回路	2	バイポーラトランジスタを用いた基本的なロジック回路について説明する。まず、基本回路としてトランジスタインバータを取り上げ、直流特性とスイッチング特性を解析する。つぎにECLを取り上げ、基本ゲート回路の構成法、動作原理、動作特性を説明する。
MOSデジタル回路	3	MOSトランジスタを用いた基本的なロジック回路について説明する。CMOS構造のデジタル回路構成法について述べる。複合ゲートの構成法や、ダイナミック回路の構成法についても説明する。ROM/RAMなどのメモリ回路について説明する。

【教科書】適宜プリントを配布する

【参考書】

【予備知識】半導体の基礎知識、論理回路、電子回路

【授業URL】

【その他】内容は適宜取捨選択する。

電気電子計測 1

60690

Electric and Electronic Measurement 1

【配当学年】3年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】橘 邦英・近藤克己

【講義概要】電気的ならびに磁氣的諸量の測定に関する基礎的事項について説明する。まず測定についての一般論を述べ、電氣量及び磁氣量に関する各種測定法ならびに測性器の原理について説明する。最後に電気電子応用計測について簡単に解説する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
電気電子計測工学の概要と電磁気学、力学の基礎事項	2	測定についての一般論を述べ、単位系について触れた後、計測に不可欠な電磁気学及び力学の基礎事項の簡単な復習を行う。
指示型計器による電氣的諸量の測定法	2~3	最も基本的な指示型電氣計器の原理を説明し、電圧、電流、電力、力率等の電氣的諸量の計測法について述べる。
電気電子計測に必要な諸技術と記録型計器	3	計測に必要な技術として、演算増幅器（OA）を用いた増幅回路、インピーダンス・マッチング、DA 及び AD 変換等について説明する。さらにサーボ記録計、オシロスコープ、シンクロスコープ等、記録型計器の原理を述べる。
ブリッジによる測定法	1~2	インピーダンス等の精密測定に用いる各種ブリッジ回路と、測定に必要な静電遮へいについて説明する。
磁氣計測と応用計測	3~4	磁界、磁束密度等の磁氣量、及び磁性材料の磁化特性、鉄損の測定について述べる。また、長さ、速度、角度、流量、振動、光、温度等の物理・化学量を電氣信号に変換して測定する応用計測について説明する。

【教科書】山崎弘郎：電氣学会大学講座 電気電子計測の基礎（電氣学会）

【参考書】

【予備知識】電磁気学、電氣・電子回路、力学等の基礎知識

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部を省略することがある。

電気電子計測 2

60710

Electric and Electronic Measurement 2

【配当学年】3年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】橘・酒井

【講義概要】高周波・マイクロ波領域における電圧、電流、電力、位相、インピーダンス、周波数などの測定原理と方法、およびアナログ/デジタル信号処理について講述する。さらに各種の光・電波応用計測、マイクロセンシングシステム等について論ずる。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
高周波計測	3~4	高周波基本量の測定原理と測定器について説明するとともに、波形分析、信号と雑音などについて述べる。さらに、計測で用いられるアナログ/デジタル信号処理について解説し、デジタル計測器について述べる。
マイクロ波計測	2~3	伝送線路の基礎、マイクロ波機器について述べた後、電界、インピーダンス、波長などの測定、スミス図表、Sマトリックスに関する説明を行う。
光計測	2~3	計測用レーザ発振器、光センサの説明を行ない、光計測器すなわち、干渉計、レーザレーダ、フーリエ分光器などについて述べる。
電波応用計測	2~3	大気中やプラズマ中の電波伝搬の基本的事項を述べ、電波を用いる距離計測や位置計測について説明する。また、実験室プラズマの計測についてもふれる。
その他の計測システム	1~2	感覚センサーやマイクロセンシングシステムなどの最新の話題についても簡単に紹介する。

【教科書】井出英人：電気学会大学講座 電気電子応用計測（電気学会）

【参考書】

【予備知識】電気電子計測 1

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数に応じて一部を省略することがある。

自動制御工学

60260

Control Engineering

【配当学年】3年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】萩原・古谷

【講義概要】フィードバック制御の基礎理論，とくに連続時間線形システムの周波数領域における取り扱いについて講述する．すなわち，ラプラス変換，伝達関数，ブロック線図，過渡応答，周波数応答，安定判別法などを通して，制御系設計の考え方の基礎について述べる．教科書の第1章～第4章ならびに第5章前半（周波数領域における線形フィードバック制御系の取り扱いの基本的な考え方）の理解を目標とする．講義は教科書に沿って進めるが，理論的な取り扱いの枠組み，および基礎となる考え方や概念についての相互的な関係に関する説明などに重点をおき，一部の詳細については各自の自習に適宜ゆだねる．とくに前半部分については演習問題をレポートとして課すなどの方法により講義内容の習得を図る．

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
フィードバック制御の概要とラプラス変換	4～5	まず，フィードバック制御の基本的な考え方や問題の所在などについて述べ，フィードバック制御理論の発展の歴史やそれを踏まえた講義内容の位置づけなどに触れる．続いて，フィードバック制御系を扱う上での重要な道具となるラプラス変換とその応用例について述べ，ラプラス変換に基づき基本的なシステムの伝達関数表現を導入する．
ブロック線図とフィードバック制御系	3～4	ブロック線図およびその等価変換を紹介した後，フィードバック制御系の取り扱い方とその性能を評価する上での考え方について簡単に触れる．続いて，いくつかの簡単な制御系を例にとり，ステップ応答の解析を通してフィードバック制御系の性質ならびにその役割を明らかにする．
システムの応答と安定性	1～2	一般的なシステムの応答に関する性質や，フィードバック制御系の安定性に関するラウスの安定判別法などについて述べる．
周波数応答	3～4	周波数応答の定義と表現法（ベクトル軌跡とボード線図），基本的なシステムのボード線図とその合成，周波数応答に基づくナイキストの安定判別法，ならびに安定余裕などについて述べる．

【教科書】荒木光彦：古典制御理論 [基礎編] (培風館)

【参考書】

【予備知識】複素関数論（複素数と複素関数についての基本的知識）

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて内容や順序を一部変更することがある．レポート課題は復習の動機付けを与えることに主眼をおくものとし，成績評価は原則として定期試験により行う．

デジタル制御

60270

Digital Control

【配当学年】3年

【開講期】後期

【曜時限】(記入してください)

【講義室】(記入してください)

【単位数】(記入してください)

【履修者制限】(記入してください)

【講義形態】(記入してください)

【担当教員】萩原・蛭原

【講義概要】自動制御工学に引き続き、デジタル制御の基礎理論について講述する。まず、 z 変換やパルス伝達関数といった概念に基づく、離散時間信号ならびに離散時間線形システムの周波数領域における取り扱いについて論じる。続いて、デジタル補償要素、ならびにそのプログラムと周波数応答、閉ループ制御系の安定性と定常偏差、サンプリング周期選定とアンチ・エイリアシング・フィルタなどについて論じる。これらを通してデジタル制御系の取扱いに関する基本的な考え方を習得する。とくに計算手法の習得を目的としたレポート課題に対する演習を通して、講義内容の全体像把握の手助けを図る。

【評価方法】(記入してください)

【学習目標】(記入してください)

【授業計画】

項目	回数	内容説明
デジタル制御の概要と z 変換	4~5	まず、デジタル制御系の基本的な構成とそれに付随する諸問題について述べる。続いて、デジタル制御系を扱う上での重要な道具となる z 変換とその応用例について講述した後、サンブラの周波数領域での表現とエイリアシングについて述べる。
パルス伝達関数、周波数応答とデジタル補償要素	4~5	デジタル制御系の基本要素となるホールド回路とパルス伝達関数について述べ、制御対象の離散化という考え方やデジタル補償要素のパルス伝達関数ならびにプログラムについて論じる。続いて、離散時間システムの過渡応答、安定性と周波数応答、ならびに基本的なデジタル補償要素について述べる。
閉ループデジタル制御系	4~5	制御対象や外乱の離散化を通して、閉ループデジタル制御系をパルス伝達関数に基づいて解析する方法を導入する。続いて、この方法に基づき、閉ループ系の安定性と安定判別法、ならびに定常偏差等について論じる。また、デジタル制御系における外乱への対処の考え方について論じ、サンプリング周期の選定やアンチ・エイリアシング・フィルタなど、制御系設計における重要な話題にも触れる。

【教科書】荒木光彦：デジタル制御理論入門(朝倉書店)

【参考書】

【予備知識】自動制御工学、電気電子プログラミング及演習(プログラミングに関する初歩的な理解)

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて内容や順序を一部変更することがある。レポート課題は復習の動機付けを与えることに主眼をおくものとし、成績評価は原則として定期試験により行う。

システム最適化

60660

System Optimization

【配当学年】3年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】古谷

【講義概要】システム最適化の数理的手法について説明する。はじめに最適化問題の数理モデルおよび数理計画法の概要を述べる。つぎに、最も基礎的な線形計画問題とその解法について詳述する。その後、非線形計画問題とその解法について、制約のない問題に対する手法および制約のある問題に対する手法を講述する。最適化問題において重要である局所最適解と大域的最適解、凸集合と凸関数、双対性、線形計画問題の解法と感度解析法、非線形計画問題の最適性条件と基本的な解法を理解することを目標とする。とくに解法については、演習問題やレポートなどにより習得をはかる。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
最適化の数理的手法	1	まず、システムにおける最適化の意味およびその数理的考え方について説明する。続いて、数理計画問題の概要と分類について述べ、本講義で対象とする問題の範囲を明らかにする。さらに、問題を扱うために必要な数学的準備を行う。
線形計画法とシンプレクス法	6	線形計画問題の定義を行うとともに標準形を示し、幾何的考察をまじえながら、解法であるシンプレクス法とシンプレクスタブローを用いた計算法について説明する。また、双対性について述べ、双対問題、弱双対定理と双対定理、双対シンプレクス法について説明する。さらに、問題の特性を知るための感度解析について説明する。
非線形計画問題	0.5	非線形計画問題の定義を行ったあと、局所最適解と大域的最適解、凸集合と凸関数などの重要な概念の説明と数学的準備を行う。
無制約非線形最適化問題に対する解法	2.5	無制約非線形最適化問題の最適性条件を与えたあと、問題の解法である最急降下法、共役勾配法、ニュートン法、準ニュートン法などについて説明する。
有制約非線形最適化問題に対する解法	2	まず、有制約非線形最適化問題の最適性条件である Karush-Kuhn-Tucker 条件などを与える。また、ラグランジュ関数、双対性、および鞍点定理について説明する。さらに、解法であるペナルティ法、逐次2次計画法などについて説明する。

【教科書】玉置 編著: システム最適化 (オーム社)

【参考書】福島: 数理計画入門 (朝倉書店)

【予備知識】線形代数学と解析学の基礎

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて、内容を一部変更することがある。レポート課題は理解を助けることに主眼をおくものとし、成績評価は原則として定期試験により行う。

知能型システム論

60670

Intelligent Systems

【配当学年】3年 【開講期】後期 【曜時限】（記入してください） 【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】松山, 喜多, 石井

【講義概要】人間の知的活動のモデルとして様々な知能型システムが提案されている。この講義では、複雑な問題における最適解を求めるための手法として、状態空間の探索による問題解決、対戦ゲームソフトウェアの構成法および分枝限定法を講述するとともに、例題からの学習を行うニューラルネットワークの教師あり学習、教師なし学習、強化学習について、基本的事項と応用例を講述する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
状態空間の探索による問題解決	2	多くの知的活動は、オペレータによってシステムの状態を変化させ、目的とする状態にたどり着くプロセスとしてモデル化できる。ここでは、8パズルなど簡単な例を使って、状態空間の表現法と各種の状態空間探索アルゴリズムを紹介する。
対戦ゲーム	1	2人で行う対戦ゲームでは、よりよい手を選ぶために先読みが必要となる。ここでは、対戦ゲームの進行状況をゲームの木によって表現し、よりよい手を選ぶための探索アルゴリズムを紹介する。
AND-OR 木の探索	1	問題を幾つかの部分問題に分割し、部分問題間の論理的関係を AND-OR 木として表す方法および、AND-OR 木で表された状態空間の探索アルゴリズムを講述する。
分枝限定法	1	分枝限定法は、各種の制約条件の下で評価関数を最適化する解を効率的に探索するための（メタ）アルゴリズムである。ここでは、具体的な例を基にしてその基本的考え方を説明する。
例題からの学習に関する概論	1	ニューラルネットワークの学習で典型的に見られる学習形式として「例題から機能を獲得する学習」がある。以降の講義で取り上げる「教師あり学習」、「教師なし学習」および「強化学習」について、その基本的な考え方について解説する。
動的計画法と強化学習	2	報酬や罰に基づき行動を獲得する手法である強化学習について、とくに多段階の行動の獲得のための学習アルゴリズムである Q-学習法を中心に、システム最適化の重要な技法である動的計画法との関連を含めて講義する。
ニューラルネットワークの教師なし学習	2	例題の特徴を抽出する教師なし学習について、確率モデルの統計的推定に基づく基本的な考え方と、行列因子化、クラスタリングなどの応用について講義する。
ニューラルネットワークの教師あり学習	2	例題から入出力関係を学習する教師あり学習について、その基礎となる最小自乗法、勾配法による非線形最適化などを含めて講義する。具体例として、多層パーセプトロンとそのための誤差逆伝播学習法について紹介する。

【教科書】プリントを使用する。

【参考書】西川, 北村: ニューラルネットと計測制御, 朝倉書店 (1995)

【予備知識】計算機ソフトウェア およびシステム最適化の知識を必要とする。

【授業URL】

【その他】成績評価の方法: 授業計画に示した内容についての理解を授業中の演習, プログラミングを伴うレポート及び試験を併用して評価する。

電気機器 2

60290

Electric Machines 2

【配当学年】3年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】大澤、中村(武)

【講義概要】電気機器のうち同期機および直流機について、それぞれの原理、構造をまず講述する。同期機および直流機にはともに発電機と電動機が存在する。それぞれの発電特性、電動機特性の基本的な考え方、特性や制御法などの相違を明らかにする。また、これらの機器に生ずる電機子反作用とその影響について述べる。さらに、電力系統において大容量の発電機として使用されている同期機と、用途が徐々に限られつつある直流機の技術的変遷について略述する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
同期機と電力系統	6~7	同期機の原理と構造などを概説した後、発電機ならびに電動機としての特性について講述する。特に同期発電機は電気エネルギー発生のもっとも重要な機器であるので、その大容量化の歴史や大容量化のためのブレイクスルー、水力発電機と火力発電機の相違点、揚水発電用の発電電動機、同期運転の特性などについて述べる。
直流機	4~5	直流機の原理、構造について述べた後、電機子反作用とその影響、対応策について述べる。発電機ならびに電動機としての特性を、励磁方式と関連づけながら講述する。また、損失の原因ならびに効率の算定法について述べる。
新しい電気機器の動き	2~3	リニアモータ、永久磁石電気機器、マイクロマシンなど電気機器の分野における新しい動きについて解説するとともに、パワーエレクトロニクス技術と電気機器との結びつきについても触れる。

【教科書】大学課程電気機器（1）（改訂2版）（仁田工吉他編著、オーム社）

【参考書】電気機器 (I),(II)（野中作太郎著、森北出版）

【予備知識】電気回路，電磁気学，電気機器 1

【授業URL】

【その他】実際の使用例など、実例をできるだけ多く説明する予定である。

パワーエレクトロニクス

60720

Power Electronics

【配当学年】3年

【開講期】前期

【曜時限】(記入してください)

【講義室】(記入してください)

【単位数】(記入してください)

【履修者制限】(記入してください)

【講義形態】(記入してください)

【担当教員】引原

【講義概要】パワーエレクトロニクスは、電力用半導体デバイスを用いた電力の変換およびその制御に関わる学問分野である。本講義では、電力変換技術とその制御技術の基本について習得することを目的としている。講義において、スイッチング回路の基礎、電力用スイッチ素子と回路の基本動作、パワーエレクトロニクス回路構成と制御技術、およびパワーエレクトロニクスによるモータ制御について述べる。

【評価方法】(記入してください)

【学習目標】(記入してください)

【授業計画】

項目	回数	内容説明
パワーエレクトロニクスの概要	3	パワーエレクトロニクスの技術の導入、スイッチング回路の基礎について説明する。
DC/DC 変換器	3	バックコンバータ・ブースコンバータをはじめとする DC/DC 変換器の種類・回路動作について説明する。
AC/DC 変換器	3	ダイオードを用いた整流回路、他励式交直変換器、自励式交直変換器(電流形・電圧形)の回路及び動作について説明する。さらに、単相・三相回路における変換器の回路構成や、出力に含まれる高調波について説明する。
パワーエレクトロニクス技術の応用	3	パワーエレクトロニクス技術の応用として、インバータによる電動機駆動について説明する。例として自動車等に用いられている永久磁石同期電動機、エアコン等に用いられている誘導電動機を取り上げる。また、最近のパワーエレクトロニクスの技術的発展について述べる。
総論	1	まとめと課題について説明する。

【教科書】ノート講義(ウェブページ, プリント併用)

【参考書】引原, 他著: エースシリーズ パワーエレクトロニクス(朝倉書店); 宮入著: 基礎パワーエレクトロニクス(丸善)

【予備知識】電気回路, 電子回路, 電力回路, および電気機器

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数に応じて適宜演習を行う。演習およびレポート(20%), 定期試験(80%)で成績をつける。

発電工学

60300

Electric Power Generation

【配当学年】3年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】八尾・山本

【講義概要】この講義では、水力・火力・原子力による大規模集中型の発電方式と、電池・再生エネルギー利用による小規模分散型の発電方式について、発電の原理、プラントの構成、およびその制御・運用方法などについて講述する。また、全体的な電源構成の趨勢と今後の動向についても展望する。なお、必要に応じて専門家による特別講義も計画する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
総論	1	電力の需給システムの構成の現状と今後の動向、各種の発電方式の分類と電源のベストミックスのあり方について展望する。
発電工学の基礎理論	1	水力・火力・原子力発電に共通する、発電に関わる熱力学、伝熱学、水力学、熱機関学の基礎知識について説明する。
電池による発電	2	化学エネルギーの電気エネルギーへの変換の原理、燃料電池およびリチウム二次電池などについて説明する。
水力発電	2	揚水発電を含む水力発電所の種類と水力発電所を構成するダム、水路、サージタンク、水圧管路などの土木設備、水車及び水車発電機の構造と特性、水力発電所の計画と運用方法について説明する。
火力発電	3	複合発電方式を含む火力発電所の種類と、火力発電プラントの構成機器と動作原理、プラントの制御と運用方法について説明する。
再生エネルギー利用の各種発電方式	1～2	太陽光、風力、地熱、海洋エネルギーなどの再生型自然エネルギー利用の各種発電方式について説明する。
原子力発電	3～4	原子力発電の中核である核分裂反応と原子炉の動作の基礎知識、原子力発電所の種類と核燃料、プラントの制御と運用方法について説明する。

【教科書】発電工学（電気学会）

【参考書】なし

【予備知識】物理学と化学の基礎知識があればよい

【授業URL】

【その他】

放電工学

60310

Electrical Discharge and Breakdown

【配当学年】3年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】濱田

【講義概要】この講義では、主として気体中の放電・絶縁破壊現象とその機構を説明するが、その内容は特に衝突現象、励起・電離過程、輸送現象等の電離気体中の基礎過程、放電開始理論およびパッシェンの法則、コロナ、グロー、アーク等の種々の放電形式についてである。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
気体放電とその工学的役割	1	電離気体について概説し、気体放電現象の利用技術、防止技術について紹介し、本講義の意図するところを述べる。
電離気体中の基礎過程	5	気体分子間の衝突現象、励起・電離過程、輸送現象、再結合現象等の電離気体の基礎過程について説明する。
気体放電の開始	2～3	気体に電界を印加した時の電子なだれ現象を説明し、気体の放電開始のメカニズムおよびパッシェンの法則について述べる。更にストリーマ理論について説明する。
定常気体放電	5～6	放電が開始した後の各種放電形態について説明する。コロナ放電・長ギャップ放電・雷放電・グロー放電・アーク放電といった放電現象の各論を述べる。更に、グロー放電、アーク放電の利用技術についても説明する。

【教科書】

【参考書】

【予備知識】気体物理に対する初歩的知識があればよい。

【授業URL】

【その他】適宜演習あるいは小試験を行う。

通信基礎論

60320

Modulation Theory in Electrical Communication

【配当学年】3年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】守倉・村田

【講義概要】変調方式各論すなわち振幅、周波数、位相、パルス諸変調方式の理論と変調復調の原理を信号処理の基礎やサンプリング定理などと共に具体的応用を含めて講述する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
信号処理	4～5	周波数の概念を明確にし、これを扱う道具としてのフーリエ級数・フーリエ変換の通信における応用を学ぶ。次にランダム信号の基礎と標本化・量子化の原理を講述する。
変調・復調方式	5～6	振幅変調、角度変調ならびにパルス変調の各種方式の原理やその発生方法、復調方法を述べ、それぞれの占有帯域幅や信号対雑音比などの特徴を比較する。
情報通信システム	2～3	通信方式の具体例としてカラーテレビジョンや衛星放送のシステムについて述べ、その理解を通じて各種変復調方式がどのように利用されているかを学ぶ。

【教科書】寺田他: 情報通信工学 (オーム社)

【参考書】

【予備知識】工業数学（フーリエ解析）、電子回路を受講していることが必要である。

【授業URL】

【その他】

情報伝送工学

60330

Information Transmission

【配当学年】3年

【開講期】後期

【曜時限】(記入してください)

【講義室】(記入してください)

【単位数】(記入してください)

【履修者制限】(記入してください)

【講義形態】(記入してください)

【担当教員】吉田 進

【講義概要】情報伝送に関わるフーリエ解析、各種ひずみや干渉、雑音等について説明した後、デジタル情報の基底帯域伝送、波形等化、伝送路符号、中継伝送技術等について講述する。さらに、代表的なデジタル変復調技術とそのビット誤り率特性などについて論ずる。

【評価方法】(記入してください)

【学習目標】(記入してください)

【授業計画】

項目	回数	内容説明
信号解析の基礎	2	最近の通信技術の進展ならびに情報伝送に関わる動向について説明するとともに、不規則信号や雑音を取り扱うためのフーリエ解析手法について講述する。
各種情報伝送路と雑音・干渉・ひずみ	2	より対線から光ファイバケーブルに至る各種情報伝送路の紹介および情報伝送にともなう各種の雑音や干渉、ひずみ、その対策などについて紹介する。
基底帯域伝送技術	4	基底帯域伝送に伴う各種の問題について講述する。すなわち、符号間干渉のない通信を実現するナイキストフィルタ更にはパーシャルレスポンス伝送方式、適応型等化器の原理、伝送路符号とそのパワースペクトル解析手法について説明する。
多重化と同期技術	2	多重伝送技術について述べるとともに、ビット同期、フレーム同期、スクランブラ・デスクランブラなどについて講述する。
変復調方式とビット誤り率	3~4	ASK, PSK, FSK, QAM などの代表的なデジタル変調方式の原理、復調の原理、ビット誤り率特性などについて説明する。

【教科書】武部、田中、橋本共著: 情報伝送工学 (オーム社 1997 年出版) を予定。(講義開始前に掲示にて最終確認のこと。)

【参考書】

【予備知識】通信基礎論を受講していることが望ましい。

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略, 追加がありうる。

通信ネットワーク

60340

Telecommunication Networks

【配当学年】3年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】吉田・高橋・廣瀬（雄）

【講義概要】回線交換とパケット交換，伝送制御，ネットワーク制御，通信プロトコルなど通信ネットワークの基本概念について講述するとともに，インターネットや無線LAN，FTTHなどのアクセス系に至る各種通信ネットワークの実例について述べる。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
交換方式とトラヒック理論の基礎	2	交換技術の動向とトラヒック解析の基礎理論について説明する。
広域ネットワーク技術とその応用	3~4	インフラストラクチャとしての通信ネットワークの形態、およびネットワークを構成する種々の技術要素（交換、中継、無線等）を解説する。
インターネット通信	2~3	パケットデータ通信で必要となる各種の基本的な知識ならびに代表的な通信プロトコルについて講述する。
LANとプロトコル	2	各種のアクセスプロトコルならびにそれらを用いたローカルエリアネットワーク（LAN）について説明する。
事例研究・開発演習	3	現在の情報通信サービス、情報通信システムの動向をIPネットワーク、無線LAN、モバイルITの利用事例やケーススタディを交えながら紹介する。

【教科書】プリント配布予定

【参考書】

【予備知識】通信基礎論を受講していることが望ましい。

【授業URL】

【その他】上記項目の講義順序については、教官の都合により変更になることがある。

電波工学 1

60350

Radio Engineering 1

【配当学年】3年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】佐藤(亨)・橋本

【講義概要】電波伝搬およびアンテナの基本的事項を講述する。マクスウェルの方程式から波動方程式を導き、電磁波の性質を明らかにする。波源の電流分布と放射された電波の指向特性との関係を論じ、アンテナの特性の表現方法を説明する。電波の屈折、反射、散乱、回折について述べる。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
電磁波の性質	3	マクスウェルの方程式が空間を伝搬する電磁波を表す解を持つことを示し、まず平面波についてその基本的性質や反射、透過などの特性を導くとともに、伝搬速度や偏波について考察する。
アンテナの基礎	3	波源が存在する場合のマクスウェルの方程式から、放射電磁界を導出し、波源の近傍と遠方における界の特性を調べる。次に微小アンテナおよび直線状アンテナからの放射を詳しく考察し、指向特性、電力利得、インピーダンス、周波数特性、受信有効面積などの、アンテナに関する基本的な術語の概念と定義について説明する。
各種のアンテナ	3	実際に利用されるループアンテナ、ヘリカルアンテナ、アレイアンテナおよび開口アンテナなどについて、その原理、構造、特徴、基礎的解析法を説明する。またその特性測定法について学ぶ。
電波伝搬の基礎	3	地上波伝搬、対流圏伝搬、電離層伝搬やフェーディング、移動体通信で問題となる多重波伝搬、宇宙通信における伝搬や電波の回折、微小物体による散乱など、電波伝搬に関する基本事項について述べる。

【教科書】長谷部：電波工学（コロナ社）

【参考書】新井：新アンテナ工学（総合電子出版社）、
前田・木村：現代電磁波動論（オーム社）

【予備知識】電磁気学2の知識を前提とする。通信基礎論を受講していることが望ましい。

【授業URL】

【その他】

マイクロ波工学

60360

Microwave Engineering

【配当学年】3年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】橋本・篠原

【講義概要】マイクロ波回路の原理，すなわち，導波路内の電磁波の形態・解析・特性ならびに各種回路素子の原理・応用，さらにマイクロ波電子管やマイクロ波応用，ならびに最近のマイクロ波電力伝送の研究について講述する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
マイクロ波回路の基礎	2	初めにマイクロ波工学全般の概説の後，伝送線路論，スミスチャートについて説明し，基礎となるマクスウェル方程式について述べる。
マイクロ波伝送路	2	同軸線路，ストリップ線路，マイクロストリップ線路，矩形導波管，円形導波管などの伝送路について説明し，導波路モード，伝送特性，伝送損失などについて述べる。
インピーダンス整合	2	インピーダンス整合の基本と整合をとる方法について述べる。
マイクロ波回路受動素子	3	マイクロ波の回路網的な取り扱い方とSマトリックスについて述べ，コネクタ，導波管回路素子，整合負荷，減衰器，移相器，T分岐，アイソレータ，サーキュレータ，方向性結合器，電力分配・合成器などの受動素子について説明する。
マイクロ波半導体，電子管	1～2	半導体全盛の現在でも多く使われているクライストロン，進行波管，マグネトロンなどのマイクロ波電子管について略述し，マイクロ波半導体素子と集積回路の概要を説明する。
マイクロ波応用	1～2	放送，レーダー，マイクロ波加熱，電子レンジなどへの応用や人体などへの影響，マイクロ波を使った電力伝送，将来の電気エネルギー源としての宇宙太陽発電所について述べる。

【教科書】中島将光: マイクロ波工学 (森北出版)

【参考書】

【予備知識】マクスウェル方程式，電磁波の基礎，電気回路，分布定数回路

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数に応じて一部増減することがある。

計算機ソフトウェア

60370

Computer Software

【配当学年】3年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】黒橋

【講義概要】計算機の各種プログラムの作成に不可欠な、基本的なデータ構造とそれらに関連する各種アルゴリズムについて学ぶ。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
アルゴリズムと計算量	1	本講義の導入として、アルゴリズムとは何か、アルゴリズムの良さをどのように測るかについて説明する。
各種のデータ構造とアルゴリズム	4	基本的なデータ構造として、リストとヒープを取り上げ、それらの構造に対する基本的なアルゴリズムを学ぶ。
再帰呼出と分割統治	2	複雑な問題を、より単純な小問題に分割して解く方法について学ぶ。
グラフ探索	3	グラフ構造とその探索アルゴリズムについて学ぶ。
動的計画法	2	最適性の原理と動的計画法について学ぶ。
問題の難しさの測り方	1	問題自身の難しさを測る方法について説明する。

【教科書】杉原厚吉：データ構造とアルゴリズム（共立出版）

【参考書】D.E.Knuth: The Art of Computer Programming, Addison-Wesley

【予備知識】全学共通科目である基礎情報処理，基礎情報処理演習および，専門科目である電気電子プログラミング及演習，計算機工学を修得しておくこと。

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略，追加がありうる。

計算機システム

60380

Computer Systems

【配当学年】3年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】越智裕之

【講義概要】計算機システムの構成について講述する。命令語の構成とプロセッサの関係、メモリシステムの構成法、特にキャッシュ、仮想メモリシステムの詳細について論じる。RISCの考え方と構成法、入出力方式等について説明する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
計算機システムとは	1	システムとしての計算機の構造の概要、計算機システムの歴史的発展をたどる。
命令語の構成とアドレッシング	2	典型的な計算機の命令セットについて、その特徴と内容を説明し、アドレッシングモードの種々とその必要性について説明する。
命令実行のパイプライン制御	2	命令パイプラインの概念、そのための工夫、RISCマシンの特徴について説明する。
キャッシュメモリ	2	キャッシュメモリの構造、主メモリとの間のデータの転送について詳述する。
主記憶の仮想化	2	主記憶と補助記憶との関係、アドレス変換等について説明する。
割込みと入出力系	2	割込みの概念、その回路、割込み処理等について述べる。入出力チャンネルの働き、種々の周辺装置について説明する。
高性能計算機	2	スーパーコンピュータや並列計算機など、高性能計算機のトピックを扱う。
計算機設計技術	2	ハードウェア動作記述言語SFLと論理合成CAD「PARTHENON」を用いた計算機の方式設計法について説明する。

【教科書】

【参考書】橋本昭洋：計算機アーキテクチャ（昭晃堂）、中村行宏・小栗定康：ULSIの効果的な設計法（オーム社）

【予備知識】論理回路、計算機工学を修得しておくこと。

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

デジタル信号処理

60610

Digital Signal Processing

【配当学年】3年 【開講期】後期 【曜時限】（記入してください） 【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】松山

【講義概要】 計算機を用いて 1 次元信号および 2 次元画像を処理・符号化するための基礎理論について講述する。具体的には、離散フーリエ変換をはじめとする直交変換、高速フーリエ変換アルゴリズム、1 次元・2 次元信号の符号化法と JPEG・MPEG の原理、離散システム理論に基づく FIR、IIR フィルタを中心に説明する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
デジタル信号処理の概要	2	デジタル信号処理の目的と基本的考え方、利点を説明し、多次元信号に対するフーリエ変換および、1次元フーリエ変換と2次元フーリエ変換の関係を表す例として CT (Computer Tomography) の原理を紹介する。
信号のデジタル化	1	1次元信号の標本化について述べた後、2次元画像のデジタル化法を紹介する。
離散フーリエ変換とFFT	3~4	1次元デジタル信号に対する離散フーリエ変換を説明したのち、その高速計算アルゴリズムである FFT (Fast Fourier Transform) を紹介し、それらの2次元デジタル画像への拡張について述べる。
直交変換とフィルタリング	3~4	離散フーリエ変換以外の直交変換として、離散コサイン変換を概説し、直交変換を用いたデジタル信号の処理について述べる。また、短時間フーリエ変換、信号の多重解像度解析について述べ、ウェーブレット変換の基本的考え方を紹介する。
符号化	2	信号の符号化として、波形符号化、ベクトル量子化、変換符号化を説明したのち、音声、文書画像、写真 (JPEG)、ビデオ (MPEG) の符号化法を概説する。
離散時間システムに基づくフィルタリング	3~4	z 変換による離散時間 LTI (Linear Time Invariant) システムの特性記述を概説したのち、FIR、IIR フィルタによるデジタル信号処理の方法について述べ、直線位相 FIR フィルタの設計法を紹介する。また、2次元デジタル画像に対するフィルタリング処理についても言及する。

【教科書】辻井・鎌田：デジタル信号処理（昭晃堂）を基本とするが、各項目について詳しく説明したプリントを配布する。

【参考書】

【予備知識】工業数学 E1 および通信基礎論 を前提としており、並行して開講されるデジタル制御も合わせて受講すること。

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。また、講義専用ホームページを介して種々の信号処理ソフトウェアやデジタル信号データを公開し、講義と並行して数回演習課題を出すことにより、理論と実践の両面からの学習を促進する。

固体電子工学

60390

Solid-State Electronics

【配当学年】3年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】野田、浅野

【講義概要】固体内電子を活用しているものとして半導体レーザ、トランジスタ等の各種デバイスがある。これらは、技術のあらゆる分野で不可欠なものであり、社会における神経、脳細胞にも例えられている。したがって、電気電子工学を専攻する学生の基本知識として、固体内電子による現象、効果とそれらのデバイスへの応用について講述する。本年度は、特に光半導体に重きをおいた講義を行う。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
固体電子工学の概要	1	電子工学の歩みと固体電子工学の関連を述べ、本講義の位置付けを説明する。また講義全体の概要を述べる。
固体結晶の基礎	1~2	クローニツヒ・ペニーモデルを用いた固体のエネルギーバンド構造の計算法について述べたのち、固体結晶の種々の基礎概念(状態密度、フォノン、量子井戸等)を説明する。
固体結晶における光吸収	4	半導体等の固体結晶における光吸収のメカニズムとその定式化を行う。また結晶構造により、光吸収がどのように異なるか等についても説明する。
固体結晶における光増幅	2~3	光の増幅のメカニズムとその定式化を行う。これは、光吸収と密接な関係があるが、極めて重要な概念である。
種々のデバイス	3~4	固体結晶のデバイス応用について述べる。受光デバイス、半導体レーザ等の光エレクトロニクス関連の応用について詳述する。

【教科書】ノート講義スタイルとする。

【参考書】講義中に適宜参考書を紹介する。

【予備知識】電気電子材料概論、物性・デバイス基礎論を受講しておくことが望ましい。

【授業URL】

【その他】上記項目の講義順序、回数は若干変動する場合がある。

電気電子工学のための量子論

60810

Quantum Theory for Electrical and Electronic Engineering

【配当学年】3

【開講期】前期

【曜時限】(記入してください)

【講義室】(記入してください)

【単位数】(記入してください)

【履修者制限】(記入してください)

【講義形態】(記入してください)

【担当教員】北野正雄

【講義概要】量子力学の理論的枠組みをできるだけ単純な形で示し、多様な量子の振舞いを統一的に捉えることのできる視点を目指す。簡単な系を例に、数学的手法と物理的イメージを与える。

【評価方法】(記入してください)

【学習目標】(記入してください)

【授業計画】

項目	回数	内容説明
量子論の必要性	1	光子や原子波の干渉実験などの実例をもとに、量子論の必要性について述べる。
状態とヒルベルト空間	2	量子力学の数学的枠組みである複素線形空間(ヒルベルト空間)を導入し、量子状態のベクトルによる表現、ユニタリ変換による基底の変換について説明する。
物理量と演算子	2	物理量と自己共役演算子の対応についてのべる。演算子のスペクトル分解、測定理論について説明する。
時間発展	2	系の運動を記述する時間発展演算子と、その生成子(微分)としてのハミルトニアンについて述べる。シュレディンガー方程式、ハイゼンベルグの運動方程式を導入する。
2状態系	1	もっとも簡単な量子系である2状態系について述べる。パウリ行列を導入し、状態、物理量、時間発展を調べる。具体例として、偏光、電子スピン、2ビーム干渉計などを紹介する。
連続スペクトルと波動関数	2	連続スペクトルの系について述べる。連続系におけるブラケット表示や演算子の表現について調べる。連続系の時間発展方程式であるシュレディンガーの波動方程式を導入する。
量子古典対応	1	自由粒子を例に、古典力学と量子力学の対応を調べる。波束の運動方程式と正準方程式の関係、ポアソンの括弧式と正準交換関係との関係などを扱う。
合成系とエンタングルメント	1	複数の量子系をまとめて考えるために、それぞれの状態空間のテンソル積を導入する。このようにして得られる合成系の状態が示すエンタングルメントという性質について調べる。これは情報処理や量子測定において非常に重要な概念である。

【教科書】北野正雄: 量子力学の基礎 (京大生協にて販売) 授業資料ページや京大 OCW に掲載の資料はバージョンが古いので、必ず書籍を購入してください。

【参考書】清水明: 量子論の基礎 (サイエンス社)

【予備知識】線形代数, フーリエ解析, 微分方程式, 電磁気学

【授業URL】工学部授業資料ページ

【その他】レポート(2回, 各10点)と定期試験(80点)を課します。(点数配分は目安です。)

プラズマ工学

60410

Plasma Engineering

【配当学年】3年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】橘・酒井

【講義概要】プラズマ現象の基本的事項とその応用について講述する。すなわちプラズマ中の基礎過程、電磁場中の荷電粒子の運動、プラズマ電磁流体力学、プラズマ中の波動ならびに輸送現象について述べ、続いてプラズマの各種応用の現状と将来に言及する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
プラズマ工学の概要	1	プラズマの基本概念を述べ、プラズマの持つ高温、発光、導電性などの工学的応用について説明する。
プラズマの粒子像	2~3	プラズマを構成する荷電粒子の電磁界中での運動、特にドリフト、断熱不変量などを説明する。
プラズマ電磁流体力学	3~4	プラズマの流体としての性質を述べ、流体方程式系を導出するとともに、弱電離ならびに完全電離プラズマの輸送現象を説明する。
プラズマ中の波動	3~4	プラズマ中を伝搬する電磁波、静電波について説明し、波動-粒子相互作用、波動によるプラズマ制御について言及する。
プラズマの平衡と安定性	2~3	各種磁場配位中に置かれたプラズマの平衡と安定性について述べる。また高温、低温プラズマの各種応用について説明する。

【教科書】講義ノート（橘研ホームページに逐次掲載予定）

【参考書】F. Chen (内田訳)：プラズマ物理入門 (丸善) 宮本健郎：プラズマ物理学入門 (岩波書店)

【予備知識】電磁気学

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数に応じて一部を省略することがある。

真空電子工学 1

60420

Vacuum Electronic Engineering 1

【配当学年】3年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】石川順三, 後藤康仁

【講義概要】真空中における荷電粒子ビーム（電子ビームおよびイオンビーム）の振る舞いやそれらの制御に関する基礎理論について講述する。すなわち、電子とイオンの諸性質及びそれらの発生法、荷電粒子ビーム輸送の基礎概念である荷電粒子幾何光学、荷電粒子ビームと固体との相互作用などについて述べる。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
荷電粒子ビーム工学の概要	1	電子およびイオンビームの概念、およびそれらのどのような物理現象が工学的に利用され得るかを説明した後、荷電粒子ビーム応用の現状について紹介する。
真空中の電子とイオン	2~3	真空中の電子とイオンの基本的性質を説明した後、真空の概念、電子およびイオンと気体分子との相互作用、荷電粒子ビームの空間電荷効果について説明する。
荷電粒子の発生とビームの形成	3~4	真空中への電子の発生機構と材料物性との関係、電子ビームの形成法について説明した後、イオンの発生法としてプラズマから引き出す手法と金属の表面での電子移動を利用する方法について説明する。
荷電粒子ビームの輸送と操作	3~4	ビームの形状およびエネルギー制御すなわち荷電粒子幾何光学（静電レンズ、磁界レンズ、加速・減速など）と質量分離などのビームの輸送と操作について説明する。
荷電粒子ビームと固体表面との相互作用	2~3	荷電粒子ビームと固体原子との衝突現象の基礎概念について説明した後、電子ビームおよびイオンビームと固体との相互作用とそれらの応用例について説明する。

【教科書】石川順: 荷電粒子ビーム工学 (コロナ社)

【参考書】

【予備知識】電磁気学, 力学, 固体に対する基礎知識があればよい。

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数に応じて一部を省略することがある。

電気電子材料学

60430

Electrical and Electronic Materials

【配当学年】3年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】松重・山田

【講義概要】電気・電子材料がもつさまざまな機能・物性を、その材料の微視的構造・性質から理解し、ナノテクノロジーと材料分野の関りについて学習することを目的とする。特に対象とする物質は、磁性体、誘電体および有機・高分子材料である。すなわち、誘電物性、磁性、有機電子物性などの微視的起源を量子力学観点より説明する。また、束縛状態にある電子系において重要な概念となるスピンについても講述する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
物性の微視的起源	1	電気・電子分野で用いられる材料、導電体、半導体、誘電・絶縁体、磁性体および有機・高分子材料について概述し、その物性と各々の材料の微視的構造・性質との関連、ナノテクノロジーと材料の関りについて説明する
原子・分子の量子力学	3	この講義において対象とする磁性体、誘電体および有機・高分子材料においては、材料を構成する原子・分子に束縛されている電子系が物性に大きな影響を与える。量子力学の基礎について簡単に説明した後、簡単な束縛電子系の一つである水素原子を量子力学的に取り扱い、原子・分子における電子系のもつ基本的な性質について述べる。
角運動量とスピン	3	角運動量の基本的性質について説明し、その代数的表現を導入することで電子スピンの概念を導出する。また角運動量・スピンに関する基本的計算法や合成法を学習する。
磁性	3	常磁性、反磁性などの無秩序磁性について解説する。また交換相互作用について説明するとともに、強磁性、反強磁性などの秩序磁性について講述する。実用磁性の観点から磁性体の応用について述べ、スピントロニクスなど新規エレクトロニクス分野への応用についても概述する。
誘電体・有機分子の電子物性	2	強誘電物性、特に強誘電物性の基礎について説明する。また、有機・高分子材料における磁性・電子物性について述べ、分子エレクトロニクスの現状と将来展望について概述する。

【教科書】ノート講義スタイルとする。また適宜資料を配布する。

【参考書】物質の量子力学（岡崎誠，岩波書店），電子材料・部品と計測（川端昭，コロナ社）。その他講義中に適宜紹介する。

【予備知識】電子物性，固体物理に関する基礎知識があればよい。

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数に応じて一部を省略することがある。また授業順序についても適宜変更することがある。

光工学1

60440

Fundamentals of Optical Engineering 1

【配当学年】3年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】川上・船戸

【講義概要】光エレクトロニクスの学術体系の中での重要な側面である波動光学を中心とした講義を行なう。具体的には光波の基本的性質、屈折、透過、反射、干渉、回折等の光学的諸現象とその取り扱い・フーリエ光学の基礎についても講述する。また、それらの現象を応用した基本的な光学機器・素子の原理についても述べる。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
光工学の概要	1	光工学・光エレクトロニクスと日常生活との関わりを実例を挙げて述べた後、レーザの出現がもたらしたこの分野の歴史的発展と工学上の意義を説明し、本講義の位置付けを行なう。
光波の基本的性質	3	マックスウェル方程式を基に等方性・異方性媒質中の光波伝搬の取り扱いについての基礎的事項を述べる。また、光波の偏光について説明する。
光波の屈折・透過・反射	3	非吸収媒質を取り上げ、異なる二つの媒質の境界で生じるこれらの現象の取扱の基礎となるスネルやフレネルの公式を説明した後、全反射とその応用としての光学素子について述べる。また、吸収媒質での光波の振舞いについても言及する。
干渉と可干渉性	3	二光波の干渉から光の可干渉性（コヒーレンス）の概念を説明する。また干渉現象を利用したマイケルソン干渉器、分光器、ファブリペロ光共振器、薄膜光学素子などの光学機器の動作原理も説明する。併せて、光共振器の応用としてレーザ発振器の原理を述べる。
光波の回折と光信号処理	3	スカラ回折の基礎理論を基に、空間周波数の概念を導入してフーリエ変換手法による光波回折の取扱を述べ、具体的な回折像の例を解説する。また、その応用として空間フィルタなど光情報処理の原理について述べる。
ホログラフィー	1	ホログラフィー技術の基本的原理と応用について解説する。

【教科書】藤田茂夫: 光工学 (印刷テキスト), 適宜プリント配布

【参考書】現代光科学 I (大津元一, 朝倉書店), ヘクト光学 I, II (Eugene Hecht, 丸善株式会社)

【予備知識】電磁気学, フーリエ変換

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数により一部省略することがある。

生体医療工学

62000

Electrical and Electronic Engineering in Biomedical Applications

【配当学年】3年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】松田・小林・小山田・石井・天野・古谷

【講義概要】電気電子工学技術の応用を中心として生体医療工学の概要を講述する。具体的には、担当者が扱っている研究課題に関連した話題を、3回生が理解可能な形で紹介する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
細胞・生体シミュレーション	3	細胞におけるダイナミックな生命現象をイオンの移動に伴う電気的な変化として説明する電気生理学の基礎を概説するとともに、細胞レベルから臓器レベルに至る生命活動をコンピュータ上で再現する細胞・生体シミュレーションについて紹介する。
脳機能計測	3	人間の脳神経系の構成・構造について概説し、その機能を非侵襲的に計測・可視化する幾つかの代表的手法（脳磁界，機能的MRI等）と、医療応用に関して説明する。
可視化技術	3	生体医療で利用される数値シミュレーション向け可視化技術について、ステアリング技術および最適化技術との組み合わせによる利用例を中心に説明する。
神経系シミュレーション	2	神経細胞においてイオンの入出力を介した情報処理過程のシミュレーション、神経細胞の可塑や成長に関わるシグナル伝達（生化学）シミュレーションや理論解析の方法について紹介する。
医療制御システム	2	患者の生理状態の制御システムとして病院で臨床応用されている手術中の血圧制御システム，静脈麻酔制御システムなどを取り上げ、医療応用時の制御技術、とくにむだ時間を含む制御対象に対する制御法や個人差への対応法について説明する。

【教科書】なし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

【予備知識】

【授業URL】<http://turbine.kuee.kyoto-u.ac.jp/furutani/eebm/>

【その他】当該年度授業回数などの事情に応じて、講義順や回数を変更する。各項目毎にレポート課題を課す。成績評価はレポートにより行う。

電波工学 2

60470

Radio Engineering 2

【配当学年】4年

【開講期】前期

【曜時限】(記入してください)

【講義室】(記入してください)

【単位数】(記入してください)

【履修者制限】(記入してください)

【講義形態】(記入してください)

【担当教員】佐藤・橋口

【講義概要】アンテナの特性解析および設計に用いられる各種の電磁界解析手法やアレーアンテナの指向性合成理論について学ぶ。続いて、電波航法や各種レーダなどの電波応用技術の概要と現状を述べる。

【評価方法】(記入してください)

【学習目標】(記入してください)

【授業計画】

項目	回数	内容説明
レーダ技術	4	レーダによる距離や速度の測定原理とパルス圧縮法などの要素技術を説明する。レーダ技術の応用例として合成開口レーダー、地中探査レーダや計算機トモグラフィの原理と信号処理法などを述べる。
電波航法	2	電波を用いて船や航空機などの位置を計測する技術の原理を説明し、GPSに代表される各種電波航法の概略と応用、ならびに最近の技術動向を述べる。
アレーアンテナの指向性合成	3	アレーアンテナの利得を向上させ、サイドローブを抑圧するための最適指向性合成理論の基礎を学ぶ。特にチェビシェフ指向性およびテイラー指向性を取り扱う。
電磁界解析の基礎	3	アンテナから放射される電磁界や動作インピーダンスを求めるのに使用される起電力法、モーメント法、物理光学法、FDTD法などの各種の手法の原理と特徴について説明し、簡単な計算例を示す。

【教科書】長谷部：電波工学(コロナ社)

【参考書】新井：新アンテナ工学(総合電子出版社)、山口：電気電子計測(オーム社)

【予備知識】電波工学1を受講していることが必要である。

【授業URL】

【その他】

【配当学年】4年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】乗松誠司

【講義概要】大容量・長距離伝送を目的とした光ファイバ通信について講義を行う。光ファイバ、光受動デバイスの基礎理論を述べた後、光変復調、光ファイバ増幅器などについて、従来の電気通信との差異を意識して説明する。なお、光ファイバ中ではファイバ非線形効果も生じるが、本講義では光信号の線形伝搬に限定した内容とする。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
概説	1	光導波路技術、光デバイス、光ファイバ通信の進歩と現状についての概説を行なって、以下の各項目への序論とする。
光ファイバの基本的性質	1	光ファイバの構造や伝送損失について説明する。
光ファイバ中の信号伝搬	2～3	光ファイバの波長分散によって生じる光信号劣化について説明する。さらに光ファイバを用いた受動デバイスについても述べる。
光変復調の基礎	2～3	基本的な光変復調について説明する。さらに光通信システムの性能評価方法についても説明する。
光コヒーレント検波	1	光を通信に用いた場合、コヒーレント検波は従来の電気通信の場合と異なった性能となる。その差異を強調しながら光コヒーレント検波について述べる。
光ファイバ増幅器	2	光増幅器として通常用いられる光ファイバ増幅器の概要を説明する。
光増幅器の利用	2	光受信機や伝送路へ光増幅器を適用することによる伝送特性改善について説明する。
ネットワークへの応用	1	光通信システムのネットワークへの応用について述べる。

【教科書】

【参考書】山本泉也：光ファイバ通信技術（日刊工業新聞社）、石尾秀樹：光通信（丸善）

【予備知識】マイクロ波工学、光工学1、通信基礎論、情報伝送工学

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

電力系統工学

60500

Power System Engineering

【配当学年】4年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】大澤靖治

【講義概要】電力系統とは発電所、送電線、変電所など電気の供給に関わるものすべてを含むシステムのことである。本講義では、まず電力系統工学で扱う課題全般について簡単に説明した後、電力系統の周波数および電圧の制御、供給の信頼性、経済的な運用について述べる。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
電力系統工学の概要	2.5	電力系統工学で扱う全般的な課題について述べ、そのなかで本講義で対象とする項目を明らかにする。
電力系統の周波数制御	3	電力系統の周波数は60Hzもしくは50Hzに保たれている。本項では、電力系統の構成について簡単に述べた後、どのようにして周波数が一定に保たれているか、その制御方法について説明する。
電力系統の電圧制御	3	電力系統では500kVから100Vまでいくつかの電圧階級がある。それぞれの電圧を適正な値に保つことは産業などの活動にとってきわめて重要である。本項では、電圧の制御方法について説明する。
電力系統の経済運用	3	電力系統には水力、火力、原子力発電所が数多くつながれている。それらを経済的に運用することは資源利用および電気料金の点から重要な課題である。本項では経済運用の方法を説明する。
電力系統の信頼性	1.5	電力系統には社会が必要とする電気を支障なく供給する義務がある。落雷などの外乱に対して停電を起こすことなく供給を続けるためには信頼性の概念が必要である。本項では信頼性について説明する。

【教科書】大澤靖治：電力システム工学（オーム社）

【参考書】関根泰次：電力系統工学（電気書院）

【予備知識】電気回路，電力回路，発電工学

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数に応じて一部を省略することがある。

絶縁設計工学

60510

Power System Insulation

【配当学年】4年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】濱田

【講義概要】電力系統の絶縁に関する基本的な考え方とその基礎になる事項について述べるが、その内容は絶縁システムの特徴、高電圧工学の基礎、系統に発生する各種の過電圧の発生メカニズムと振舞い、電力系統のかなめの機器である開閉装置、それに対する電力系統や機器の絶縁設計方法についてである。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
絶縁設計概論	1	電力系統に発生する過電圧と機器の設計に関する考え方、電力系統で用いられる絶縁システムの種類とその基本的特性を説明するとともに、過去の変遷を紹介する。
各種絶縁材料	3	絶縁材料の種類（気体・液体・固体・真空・複合材料）と特性、ならびに実際の使用形態・使用機器について説明する。
弱点破壊	1	弱点破壊現象の一般的特性を述べる。また絶縁における弱点について述べ、実機の絶縁を維持するための基本考慮事項を述べる。
過電圧の種類と対策	4～5	電力系統に発生する各種の過電圧とその発生メカニズムについて解説する。過電圧には落雷による雷過電圧、系統の開閉時に発生する開閉過電圧、交流性過電圧があるが、それぞれの発生の原因、伝搬状況ならびにその対策手法について説明する。
絶縁協調	2～3	電力機器の絶縁設計にあたっては、これらが電力システムの構成要素として使用されることを十分に考慮しなければならない。つまり、電力システム全体の信頼性・経済性のバランスを考慮した絶縁設計手法が必須である。このための基本概念となる絶縁協調という考え方について述べる。
電力機器の開発と規格	1	電力機器を開発・実用化するにあたっての、絶縁設計上の各種考慮事項・開発手順・試験方法について述べる。特に、製品規格・試験規格の工学的重要性について解説する。

【教科書】

【参考書】

【予備知識】電気回路あるいは電力回路の過渡現象解析に関する知識のある方が望ましい。

【授業URL】

【その他】適宜演習あるいは小試験を行う。

マンマシンシステム工学

60730

Man-Machine Systems Engineering

【配当学年】4年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】小林（哲）・下田

【講義概要】コンピュータと情報処理技術の進歩で、人間と機械の調和のあり方が現代社会の課題となっている。本講義では人間と機械とで構成されるマンマシンシステムについて、人間の原理を中心とした新しい視点で、人間と機械の接点のマンマシンインタフェースに関わる基礎知識を解説する。インタフェースでの人間の心理と生理を中心に、認知心理学の基礎理論、ヒューマンエラーとシステムの安全性、インタフェースの評価分析法、心理生理学の理論と方法、などの基礎理論と応用法について講述する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
人の感覚・知覚・認知とヒューマンインタフェース	2	ヒューマンインタフェースにおける人の感覚・知覚、記憶、思考などの基礎的知識を紹介した後、アフォーダンスの考え方を解説する。
インタフェースの認知システム工学	2	インタフェース場での人の認知行動の特性とモデル化の基礎知識を紹介した後、ヒューマンエラーの包括的な見方を解説し、システム安全とヒューマンエラーの捉え方を解説する。
ユーザビリティの評価法	2	マンマシンインタフェースのユーザビリティの評価実験の方法や分析の仕方を解説する。
生理電気信号の計測と分析	3	脳波、心電図、皮膚電気信号等の各種生理電気信号の見方、計測法と分析法について解説する。
視覚系指標の計測と分析	3	視点位置、瞳孔径、瞬きなどの視覚系指標の見方、計測法と分析法について解説する。

【教科書】吉川榮和：ヒューマンインタフェースの心理と生理（コロナ社）。適宜資料も配付する。

【参考書】田村博：ヒューマンインタフェース（オーム社）

【予備知識】人の視覚や生理、心理に関する基礎知識があればよい

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

電気応用工学

60530

Applied Electrical Engineering

【配当学年】4年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】川上・濱田・中村（武）

【講義概要】照明工学、超伝導応用、静電気応用の分野にわたって横断的な講義を行い知識を深めさせることを目的とする。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
照明工学	4～5	照明の基礎としての熱放射や各種ルミネッセンスなどの発光現象、測光諸量と単位およびカラー表示に不可欠な表色系についても講述する。また、発光ダイオードを用いた固体照明についても述べる。
超伝導応用	4～5	超伝導の基礎的な性質を説明した後、その電気機器への応用について述べる。また、それに関連する周辺技術や制御技術について説明する。
静電気応用	4～5	静電気現象の基礎、電磁力と比べた特徴などを述べた後、静電塗装、静電選別、静電写真、さらに電気集塵装置などの環境対策機器を説明する。また、静電気の障災害と防止技術について触れる。

【教科書】各分野で講義資料を用意する。

【参考書】

【予備知識】

【授業URL】

【その他】適宜演習も行う。

音響工学

60540

Acoustics

【配当学年】4年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】松重、山田

【講義概要】音および振動・波動に関する基本的性質を理解し、その応用技術について学習することを目的とする。音波の波動方程式を下に、音に関するさまざまな現象を説明し、音響・機械振動系と電気系との対応概念を講述する。また電気機械変換系の機構と性質を圧電材料を中心に説明し、超音波技術への応用について述べる。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
音と聴覚	3	音と聴覚に関する基礎について説明し、音に関する感覚量と物理量の対応ならびに違いについて講述する。また音に関するさまざまな現象について説明する。
音響・振動の物理	3	音波の波動方程式を導出し、これを下に音の伝搬、反射、共鳴、放射に関する理論について説明するとともに、音響インピーダンスなど音響に関する基本的物性について述べる。また光や電磁波などの波動伝搬との対応関係についても説明し、機械振動系や音響系を電気回路として表す電氣的等価回路について述べる。
超音波技術とその応用	3	超音波技術に関する基礎について説明するとともに、超音波顕微鏡、超音波医療診断・治療、超音波加工など、その応用について述べる。
電気機械変換系	3	機械・音響的な信号・エネルギーと電氣的な信号・エネルギーの相互変換の機構と性質を説明する。特に水晶振動子などの圧電材料については、その構造と物性の詳細について説明するとともに、圧電振動系の基礎方程式を下に構造機械共振と電気特性の関係を述べる。

【教科書】ノート講義スタイルとする。また適宜資料を配布する。

【参考書】改版電気音響振動学（西巻，コロナ社）

【予備知識】振動・波動，電磁気学に関する基礎知識があればよい。

【授業URL】

【その他】講義回数に応じて内容を調整する。

真空電子工学 2

60550

Vacuum Electronic Engineering 2

【配当学年】4年

【開講期】前期

【曜時限】(記入してください)

【講義室】(記入してください)

【単位数】(記入してください)

【履修者制限】(記入してください)

【講義形態】(記入してください)

【担当教員】石川順三、後藤康仁

【講義概要】電子およびイオンビームを用いたデバイスや装置の基本動作原理を講述する。まず、電子ビームと電磁波との相互作用を利用した超高周波電子管について説明する。次に電子ビームと固体との相互作用を利用したデバイスやプロセス装置および分析装置について説明する。さらにイオンビームと固体表面との相互作用を利用したプロセス装置および分析装置について説明する。

【評価方法】(記入してください)

【学習目標】(記入してください)

【授業計画】

項目	回数	内容説明
荷電粒子ビーム装置の概要	1	エネルギーの輸送媒体である電子ビームと元素の輸送媒体であるイオンビームを用いたデバイスや装置への利用形態について説明し、荷電粒子ビーム装置の応用の現状について紹介する。
超高周波電子管	4~5	短い走行時間を利用するマイクロバキュームチューブの動作原理を述べた後、電子ビームの密度変調を利用する超高周波電子管である速度変調管、進行波管、マグネトロン、ジャイロトロンの動作原理を説明する。
電子ビームデバイス・装置とその動作原理	3~4	電子ビームを用いた各種デバイスの動作原理について述べた後、電子ビームを用いた蒸着、溶接、照射(架橋)、露光分析などの装置の動作原理について説明する。
イオンビーム装置とその動作原理	3~4	イオン注入装置、イオンビームエッチング装置、イオンビーム蒸着装置の動作原理を説明した後、イオンビームを用いた分析装置の動作原理について述べる。

【教科書】石川順: 荷電粒子ビーム工学 (コロナ社)

【参考書】

【予備知識】真空電子工学1

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数に応じて一部を省略することがある。

光電子デバイス工学

60560

Optoelectronic Devices

【配当学年】4年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】野田、浅野

【講義概要】3回生配当の固体電子工学、半導体工学を基礎として、現在の情報処理、通信の分野に不可欠な各種の光・電子デバイスの動作理論を講述する。特に発光デバイスの動作原理について基礎から詳しく述べる。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
発光の基礎過程	4~5	二準位電子系からの自然放出過程について概観した後、フェルミの黄金律、電気双極子相互作用、光の状態密度等について説明しつつ、最終的に発光緩和レートの理論式を導出する。
半導体からの発光過程	4~5	半導体へのエネルギー注入から発光までの過程を概観した後、発光デバイスの物理を説明する。電子・正孔の状態密度、分布関数等を用いて定常状態における発光スペクトルの理論式を導出する。また過渡状態を記述するレート方程式を導出して、発光効率を決定する要素について説明する。
電子状態の制御と発光特性	2~3	半導体発光デバイスの電子状態の制御による発光特性の制御について述べる。特に量子構造を用いて発光特性を向上させる手法について説明する。半導体ヘテロ構造を用いた種々の量子構造について述べ、量子化準位の計算手法や量子構造を用いた電子デバイスについても説明する。

【教科書】ノート講義形式とする。

【参考書】授業中に各種参考書を紹介する。

【予備知識】固体電子工学、半導体工学を受講しておくことが望ましい。

【授業URL】

【その他】各講義項目の順序、時間配分は変化する場合がある。

光工学2

60570

Fundamentals of Optical Engineering 2

【配当学年】4年

【開講期】前期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】船戸・川上

【講義概要】コヒーレント光波の発振器であるレーザの動作機構に関わる基本的な事項について講述する。すなわち、誘導放出による光の増幅と光共振器特性、発振動作解析について述べた後、各種レーザ装置の概要を述べる。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
レーザ工学の概要	1	量子エレクトロニクスの歴史的展開とレーザの工学技術上の意義を述べて本講義の位置づけを明確にする。
レーザの基礎物理	3	レーザの動作を理解するための基礎として物質と電磁波との相互作用すなわち光吸収と放出の理論と誘導放出による光の増幅について述べる。
レーザの動作解析	5	レーザの発振条件や多準位系の動作を理解するとともに、レーザ動作の特例としてQスイッチレーザ、モードロッキングなどについても述べる。
レーザ光共振器とガウシアンビーム	2.5	レーザ発振器に必要な共振器の種類や特徴、及びレーザビームとしてのガウシアンビーム伝搬の解析について述べる。
レーザ装置各論	1.5	気体、液体、固体、半導体など各種のレーザ媒質を用いたレーザデバイス特性の概要を述べて、それぞれの特徴を応用した工学分野について説明する。

【教科書】ノート講義、適宜プリント配布

【参考書】ヤリフ著 多田、神谷訳：光エレクトロニクスの基礎(丸善)、ヘクト著 尾崎、朝倉訳：光学III(丸善)

【予備知識】光工学1、電磁気学

【授業URL】

【その他】当該年度の授業回数により一部省略することがある。

電気伝導論

60790

Electrical Conduction in Condensed Matter

【配当学年】4年 【開講期】前期 【曜時限】(記入してください) 【講義室】(記入してください)

【単位数】(記入してください)

【履修者制限】(記入してください)

【講義形態】(記入してください)

【担当教員】鈴木実

【講義概要】固体(特に金属・半導体・超伝導体)における電気伝導について古典論から量子論にわたって説明する。固体中の電子の振る舞いと、電気伝導を理解するのに重要な概念である格子振動(フォノン)、電子-フォノンの相互作用を論ずる。また、直流から高周波・マイクロ波および光学領域の電気伝導度を統一的に理解することを目指す。今年度は順番を変えて量子力学の基礎の前に、超伝導の電気伝導、高周波の電気伝導、光学伝導の講義します。

【評価方法】(記入してください)

【学習目標】(記入してください)

【授業計画】

項目	回数	内容説明
ドゥルーデ・モデル, ボルツマン方程式	2	ドゥルーデ・モデルを基礎として 直流電気伝導、磁場中の伝導を緩和時間を用いて説明する。古典的分布関数に対するボルツマン方程式を導き、これから電気伝導に関する基本式を説明する。
量子力学の基礎と波数空間	3	ブラ・ベクトル、ケット・ベクトルを用いた量子力学の基礎を説明する。固体中の電子や原子の運動を記述するのに重要な波数空間について説明する。
自由電子模型, 固体中での電子の伝導	4	電子(フェルミ粒子)に対するフェルミ統計を説明する。電子の系が縮退している金属の電子分布について説明する。理想フェルミ気体としての自由電子模型を説明し、電子比熱、熱電子放出を求める。また、フェルミ面、磁場中の電子の運動、ホール効果バンド構造、逆格子ベクトル、換算質量について説明する。格子空間におけるブロッホの定理と電子伝導の基本方程式であるボルツマン・ブロッホ方程式について説明する。
電子・フォノン相互作用, 金属・半導体の電気伝導	3	格子振動が量子化されたフォノン(ボーズ粒子)とボーズ統計について説明する。フォノンの状態密度を求め、格子比熱を導く。フォノン散乱、電子電子散乱について説明する。これをもとに、金属における抵抗率の温度依存性と低温でのブロッホ・グリュナイゼンの法則について説明する。半導体における電気伝導、特に散乱について説明する。
超伝導体の電気伝導	1	超伝導現象について説明し、現象論である二流体モデルを用いて、ロンドン方程式、マイスナー効果などを説明する。超伝導で重要な位相とベクトルポテンシャルの関係およびジョセフソン効果について説明する。
高周波・光学伝導度	2	交流電気伝導の高周波極限としての高周波・光学伝導度について講義する。高周波で現れる表皮効果、表面インピーダンスについて説明し、光学領域での複素インピーダンスと複素屈折率の関係を説明し、双対性とクラマース・クローニッチ変換を説明する。

【教科書】ノート講義スタイルである。プリントを配布します。

【参考書】阿部龍蔵：電気伝導(培風館)に沿った講義になるが、この本は絶版である。

【予備知識】電磁気学、統計物理学、物性デバイス基礎論を受講しておくことが望ましい。

【授業URL】練習問題および解答を適宜 <http://www.kuee.kyoto-u.ac.jp/suzuki/index.html> に掲示する。

【その他】当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。

電気法規

60580

Laws and Regulations of Electric Power Engineering

【配当学年】4年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】三浦 良隆

【講義概要】電気関係法令の主要点について、エネルギーや環境問題等との関連を明らかにしながら、電気事業法を中心に講述する。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
電気事業と法の歴史	1	電気事業の歴史と各種法令との関係、電気事業を取り巻く情勢、事業規制・保安規制について解説する。
電力自由化と原子力	1	電気事業をめぐる規制緩和の動向と諸課題、電力自由化における原子力の位置づけについて解説する。
系統運用と電力品質	2	電力品質と関係法令について、電力技術の動向を交えながら解説する。また、電気事業の現況と電力品質を正しく認識するために、電力設備のを見学する。
地球環境と省エネ・新エネ	1	地球温暖化などの地球環境問題、省エネルギーおよび新エネルギー開発の取組事例とその関係法令について解説する。
電気設備の技術基準	1	電気設備の技術基準について、過去に発生した事故事例を交えて解説する。

【教科書】プリント

【参考書】

【予備知識】発電、送電、変電、配電に関する基礎知識。

【授業URL】

【その他】

電波法規

60590

Laws and Regulations of Radio Wave Engineering

【配当学年】4年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】薄木一起

【講義概要】情報通信時代の現在、携帯電話を筆頭に、電波を利用した情報通信機器類の普及は目覚ましい。今後の更なる電波産業分野での研究開発やその利活用の範囲を開拓していくことが期待されている。我国の電波行政は主として電波法、放送法を基本としているが法体系や規則等のその構成や内容は決して十分なものではない。電波の利活用は多種多様で多岐にわたっており、有限の資源でもある電波を円滑且つ平等に使用していく事が要求される。今後の更なる円滑な利活用促進のため、電波法に関する法制度の実状と基本的な内容を理解し、今後の電波産業の一層の発展に寄与していけるように指導する。また、実務面で「1級陸上、3級海上の特殊無線技士の免許」を本講義及び必要な他の科目の認定により取得出来るので有効に活用出来る。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
電波法の歴史	1	我国の電波に関する法制度の歴史的発展過程等を講義する
電波利用の現状	1	電波利用の実情、我国の電気通信網の基本、携帯電話等を講義する。
電波の性質	1	電波の性質、特徴、有害性及び有線・無線の比較、ブロードバンド通信、放送のデジタル化等を講義する
衛星と光ケーブル	1	衛星通信の仕組み、海底ケーブルの施設方法(映像宜峙)
電波法要論	7	<ul style="list-style-type: none"> ・理念、法律、国際法との関係、定義、他の法律との関係 ・無線局免許規則、従事者規則など ・電波形式、周波数、空中線電力等の概要 ・電波の品質規格、微弱電波と技術基準など ・目的外通信、運用保守の基本 ・電波法の違反と罰則

【教科書】今泉至明著「電波法要説」電気通信振興会

【参考書】「電波法令集」電気通信振興会

【予備知識】

【授業URL】

【その他】

電気電子英語

60910

English for Electrical and Electronic Engineering

【配当学年】4年

【開講期】後期

【曜時限】（記入してください）

【講義室】（記入してください）

【単位数】（記入してください）

【履修者制限】（記入してください）

【講義形態】（記入してください）

【担当教員】高橋達郎、Ron Read

【講義概要】電気電子工学に関する英語論文の作成能力を養うことを目的とする。英語論文作成のための基礎的な講義のほか、テクニカルライティングを専門とする外国人講師による、実践的な作文演習とグループ・個人の添削指導を行う。

【評価方法】（記入してください）

【学習目標】（記入してください）

【授業計画】

項目	回数	内容説明
科学技術英語の基礎知識	3	電気電子工学を中心として、論文のスタイル、科学技術の英語に特別に用いられる英語の用法、数式等の読み方を学ぶ。
Principles of Academic Writing	2	Key points of course's main textbook are reviewed along with examples of actual technical writings.
Writing Style	2	Basic principles of writing style are discussed in mini-lectures and short in-class exercises.
Common Problems Review	2	The instructor will present examples of errors commonly made by Japanese authors. These sessions are conducted using short examples of problems that the students should try to solve.
Homework Clinic	2	Review of homework exercises done by students. This session involves discussion and correction of the student's own writing and topics. Correction of carefully selected samples is done in small groups.
Individual Review Session	1	Instructor answers the questions of individual students about their homework assignments or English documents they are working on outside of class.

【教科書】資料を配布する

【参考書】Robert A. Day and Barbara Gastel, "How to Write and Publish a Scientific Paper, 6th Edition," Cambridge University Press

【予備知識】

【授業URL】

【その他】2コマ連続の6回の講義である。最初の3回は各1時間程度の homework が課される。外国人講師の講義は英語。作文演習素材に卒業研究の内容を用いるので、受講者は卒業研究の研究室配属されている必要がある。英語論文作成能力を、レポートや講義の中で評価する。

工学倫理

21054

Engineering Ethics

【配当学年】4年 【開講期】後期 【曜時限】(記入してください) 【講義室】(記入してください)

【単位数】(記入してください) 【履修者制限】(記入してください)

【講義形態】(記入してください) 【担当教員】大畠・木本・吉川 他関連教員

【講義概要】現代の工学技術者、工学研究者にとって、工学的見地に基づく新しい意味での倫理が必要不可欠になってきている。本科目では各学科からの担当教員によって、それぞれの研究分野における必要な倫理をトピックス別に講述する。

【評価方法】(記入してください)

【学習目標】(記入してください)

【授業計画】

項目	回数	内容説明
イントロダクション (工学部 西本清一)	1	工学倫理とは。なぜいま工学倫理なのか。化学物質と環境問題。レポート等の提出に関する注意・成績評価基準などのガイダンスも行う。
応用倫理学としての 工学倫理(文学部 水谷雅彦)	1	工学倫理の基本的な考え方を、他の応用倫理との比較において検討し、現代の科学技術の特殊性について、哲学的、倫理的な考察を行う。
健康を対象とする工 学(工学研究科 富 田直秀)	1	ヒトや医療を対象とした工学設計の実例を提示し、そこに絡む倫理的な問題を考察する。授業では実例に対する参加者の意見を授業中に提示していただき、考察を進めていく。授業内における経験学習と考察内容が採点対象となるため、欠席や大幅な遅刻は採点外となることに注意すること。
特許と倫理(法学研 究科 松田一弘)	2	知的財産の価値がますます増大する中、特許制度についての知識は研究者・技術者に必須となっている。この講義では、特許制度について基礎的な事項を学びながら、特許を巡る様々な倫理問題について考察する。
ものづくりと安全 (物理工学科 幸田 武久)	1	最近、ものの安全に関する問題が種々起こっている。安全で安心できることは当然のことと考えられるが、ものの安全は必ずしも最初から付与されず、新たなものづくりは新たな危険を生み出す恐れがある。ものづくりにおいてどのように安全を考えるべきかについて考察する。
資源・エネルギーと 環境倫理(地球工学 科 石田毅)	1	社会との相互作用の強い建設、原子力産業を例に、科学技術を社会に应用するときの問題点と科学技術倫理の重要性を示す。同時に関係する人文・社会科学の学問領域《discipline》を概説する。
土木技術者の誇りと 倫理(地球工学 科 田村 武)	1	土木工学は、自然災害から生命や財産を守り、豊かで安全な町を作ることにその本来の意義がある。作ったものに誇りをもつのではなく、それにより多くの人々が恩恵を受けることに誇りをもつのが土木技術者である。その意味で、社会に対する奉仕精神や自己犠牲的な倫理観が強く望まれる。このような観点から工学倫理を考察する。
エネルギーデバイス と安全・安心(工業化 学科 小久見善八)	1	電池、燃料電池のようなエネルギー変換デバイスにおける安全性・耐久性・環境負荷の現状と考え方を講述し、これらデバイスの社会における位置づけについて説明する。
一人前の技術者・研 究者になるために (工業化学科 檜山 爲次郎)	1	プラスチックなどの高分子物質は現代生活において不可欠となっているが、環境問題と関係していることもよく知られている。高分子の科学と工業の発展、化学物質・高分子物質と環境問題との関係、循環型社会の構築、環境/エネルギー問題に対する高分子化学の取り組み、関連技術者の倫理などについて講述する。
情報倫理(情報学科 岩間一雄)	1	デジタル商品の売上が盛んになっている。デジタル商品の特色は、いくらでもコピーが可能であり、情報そのものの価値以外には例えばハードウェアや媒体といった「もの」が存在しない。こうした商品を売買するときに如何に利益を上げるかという問題に対し、オークションの立場から解説する。
建築設計・施工にお ける技術者倫理(建 築学科 金多 隆)	1	安全で安心な建物を供給していくために必要な建築生産における要点を、建築設計、材料や部材製造及び現場施工の立場から講述する。その中から、建設産業に係わる技術者が持つべき倫理観を引きださせる。

【教科書】講義資料を配布する。

【参考書】中村収三・近畿化学協会工学倫理研究会 編著「技術者による実践的工学倫理—先人の知恵と戦いから学ぶ—」, 化学同人(2006)

【予備知識】

【授業URL】

【その他】桂キャンパスと吉田キャンパスとで遠隔講義を行う。当該年度の授業回数などに応じて、一部追加及び講義順序の変更がありうる。[対応する学習・教育目標] C. 実践能力 C3. 職能倫理観の構築

工学部シラバス 2008年度版
(D分冊 電気電子工学科)
Copyright ©2008 京都大学工学部
2008年4月1日発行 (非売品)

編集者 京都大学工学部教務課

発行所 京都大学工学部

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

デザイン シラバスワーキンググループ
syllabus@t.kyoto-u.ac.jp

工学部シラバス 2008年度版

- A 分冊 地球工学科
- B 分冊 建築学科
- C 分冊 物理工学科
- D 分冊 電気電子工学科
- E 分冊 情報学科
- F 分冊 工業化学科
- オンライン版 <http://syllabus.t.kyoto-u.ac.jp/>



京都大学工学部 2008.4